

2018年もOG、現役学生が大集合!

武庫川女子大学ラジオ

続

読む

MUKOJO

ラジオ

DJ:塩田えみさん

(武庫川女子大学短期大学部卒業生)

ラジオで!



スマートフォンで!



パソコンで!



毎週水曜20:00~20:30 FM OH!で放送中

MUKOJOラジオ 検索



「MUKOJOラジオ」 リスナーのみなさんへ

2019年は武庫川学院にとって、創立80周年の記念の年です。1939年、鳴尾村の小さな高等女学校からスタートした武庫川学院は80年後、大学を核に、保育園から大学院まで有する日本最大規模の女子総合学園になりました。大学は2019年4月の教育学部開設で、7学部14学科に。学生数約1万人、卒業生は約19万人にのびます。

「武庫川女子大学ラジオ-MUKOJOラジオ-」は2017年4月、80年分の武庫女生の“輝く今”を、広くリスナーに知ってもらおうと、FM OH!で放送をスタートしました。毎回、卒業生や在学学生、教職員をゲストに迎え、DJの塩田えみさんと楽しいトークを繰り広げています。放送回数は2019年2月27日で100回を数えました。

2018年も多彩な卒業生が登場しました。機械メーカーの従業員から社長になった人、秋田県で警察官になる夢をかなえた人、漫才師、アナウンサー、女優、日本を飛び出し、ボリビアやアリゾナで活躍する人―。収録当日、赤ちゃんを抱いてスタジオに入った人、大きなおなかで収録に臨んだ人もいました。夫や同窓生、恩師が応援に駆け付けることもしばしばです。

有名人でも時の人でもないけれど、仕事や活動に誇りを持って取り組み、生き生きと人生を切り拓く女性たちです。ゼミやクラブの活動成果、コンテストでの受賞を引っ提げて、学生も登場します。男性教員、男性の大学院生の出演もあります。とりどりの声の集積が、武庫女の学びの本質を示唆します。番組は好評のうちに放送3年目に入りました。

武庫川学院が立学の精神で掲げる「高い知性」「善美な情操」「高雅な徳性」は、武庫女生が備えるべき3つの資質です。見渡せば、在学学生も卒業生もこの精神を体現し、聡明で、心あたかな女性たちです。80周年は平成の終わりに重なりました。新しい時代とともに、武庫川学院は創立100周年に向かって歩み出します。今まだ幼い子どもたち、あるいは、これから生まれる子どもたちが成長し、20年後のキャンパスを行き交う姿が、目に浮かぶようです。そのころ、卒業生は25万人を超え、また新たな“輝く今”が語られるでしょう。

「続 読むMUKOJOラジオ」は、2018年に「MUKOJOラジオ」に登場した52組のトークの再現集です。笑ったり、懐かしんだり、懸命に言葉を探したり。放送を聴いた人も、聴き逃した人も、行間からあふれ出す、すてきなドラマをお楽しみください。

2018年1月～12月

I	「MUKOJOラジオ」リスナーのみなさんへ	
II	キャンパスがスタジオになった! — 初めての公開収録	2
III	ゲストトークとアンケート	(敬称略)
第40回	1月3日放送 「武庫女発 長寿の秘訣—大豆、魚、減塩で健康に!」	4
	家森幸男(国際健康開発研究所所長)	
第41回	1月10日放送 「加害者の更生支援と被害者の心のケアに携わって」	6
	坂田美和子(教育学科初等教育専攻卒)	
第42回	1月17日放送 「“KAY本宮”のグローバルに活躍したい人へのメッセージ」	8
	本宮暢子(教育学科体育専攻卒)	
第43回	1月24日放送 「武庫女お笑い芸人—異色の兄妹コンビで活躍」	10
	星野舞子(情報メディア学科卒)	
第44回	1月31日放送 「ありがとうの言葉に支えられ—異国で子どもたちを支援」	12
	小西小百合(教育学科体育専攻卒)	
第45回	2月7日放送 「思い出の家具修理します—顧客開拓のカギはブログ」	14
	増田千穂(英米文学科卒)	
第46回	2月14日放送 「羊毛の美しさに魅せられて」	16
	本出ますみ(国文学科卒)	
第47回	2月21日放送 「みんなが笑顔になるクラシックコンサートを」	18
	西村典子(声楽学科卒)	
第48回	2月28日放送 「誰かのために服を作る喜び—キッズドリームウェアに参加して」	20
	野上采加(生活環境学科4年)	
第49回	3月7日放送 「歌うことは宝物—女優として成長めざす」	22
	吉里瞳子(声楽学科卒)	
第50回	3月14日放送 「子育て家族の応援冊子KID'S SMILE 2018を発行」	24
	庄司直子・中川歩実(教育学科4年)	
第51回	3月21日放送 「卒業式を終え、衣料研究者の道へ」	26
	柿崎優(生活環境学科4年)	
第52回	3月28日放送 「全国大会常連の実力派—伝統の附属中高コーラス部」	28
	長田紫苑(附属高校3年)、陶山桃花(附属高校2年)、岡本尚子(コーラス部顧問)	
第53回	4月4日放送 「英語プレゼンコンテストで全国優勝の快挙」	30
	本田諭美(英語文化学科4年)、清水利宏(英語文化学科准教授)	
第54回	4月11日放送 「共通教育科目『アウシュビッツツアー』に参加して」	32
	岡田紗瑛(薬学科3年)、山本百合恵(健康生命薬科学科4年)	
第55回	4月18日放送 「日本語を学ぶ外国人を親身に指導」	34
	石上統子(日本語日本文学科卒)	
第56回	4月25日放送 「笑顔がはじける幼稚園—遊びから生きる基礎学ぶ」	36
	大江嘉津子(短大初等教育科卒)、西森遥(教育学科卒)	
第57回	5月2日放送 「武庫女の今を、You Tubeで毎日配信」	38
	松尾有紀(情報メディア学科4年)、澤村優海・池原佳澄(情報メディア学科3年)	
第58回	5月9日放送 「ものづくりの技術を守りたい—従業員から社長に」	40
	鯛かおる(短大家政科卒)	
第59回	5月16日放送 「働くママを応援—社長も学ぶ社会人大学院」	42
	上野公嗣(院臨床教育学研究科修士修了)	
第60回	5月23日放送 「薬剤師の幸せが発展のカギ—全国で薬局を展開中」	44
	柳生美江(生物薬学科卒)	
第61回	5月30日放送 「フィリピン・セブ島で子どもたちにダンスを指導」	46
	橋上夕貴・末次桃子・多田咲美(健康・スポーツ科学科4年)	
第62回	6月6日放送 「宝塚歌劇の夢の舞台を支える仕事人」	48
	白水陽佳(短大健康・スポーツ学科卒)	
第63回	6月13日放送 「幸せを招く白い泡—ぶくぶく茶の魅力伝えて」	50
	笠島香織(短大国文科卒)	
第64回	6月20日放送 「患者さんの笑顔が見たいから—子どもの在宅医療を研究」	52
	前田由紀(院看護学研究科博士後期課程2年)	
第65回	6月27日放送 「大人気!『神戸・清盛隊』の産みの親—80周年記念式典でも活躍」	54
	若見しのぶ(教育学科初等教育専攻卒)	

- 第66回 7月4日放送 「個性が詰まった『ふでばこ』めざす—外国にルーツを持つ子どもたちをサポート」 …… 56
中西美咲・小川瑚登・時実麻優(英語文化学科4年)
- 第67回 7月11日放送 「甲子園会館で生きた建築を学んで」 …… 58
馬場あさひ(院生活環境学研究所修士修了)
- 第68回 7月18日放送 「ダンスの甲子園『オールジャパン』を前に」 …… 60
山下爽香(健康・スポーツ科学科4年)、久保田恵利(健康・スポーツ科学科2年)
- 第69回 7月25日放送 「いつまでも輝いて美しく—ミセス日本グランプリ(60代の部)優勝」 …… 62
本庄典子(教育学科体育専攻卒)
- 第70回 8月1日放送 「本を通してお客さまとつながる喜び」 市岡陽子(院文学研究科修士修了) …… 64
- 第71回 8月8日放送 「数式入力インターフェース『MathTOUCH』開発」 …… 66
福井哲夫(情報メディア学科教授)
- 第72回 8月15日放送 「個性ある歌声を一つに—音楽学部卒業生のコーラス『Lavie』」 …… 68
松尾芳子(音楽専攻生修了)、中尾奈津子(音楽学科卒)
- 第73回 8月22日放送 「ダイヤのように輝きたい—男役エンターテイナー神勢大也」 …… 70
渡邊翠(英語文化学科卒)
- 第74回 8月29日放送 「玄米を食べて食糧支援—ブラウンライスボランティア」 …… 72
大西陽香(食物栄養学科3年)、蒔田紀子(日本語日文学科2年)
- 第75回 9月5日放送 「IT業界のヘッドハンター—世界トップをめざして」 畠山世理菜(英語文化学科卒) …… 74
- 第76回 9月12日放送 「おいしいカップスープできたよ!—企業と商品を共同開発」 …… 76
竹ノ内七海・福田史織・瀬沼玲衣(食物栄養学科4年)
- 第77回 9月19日放送 「書の道から筆文字アート—ホームルチな才能で新たな展開めざす」 …… 78
佐々木彩(日本語日文学科卒)
- 第78回 9月26日放送 「警察官になる!—挑み続け、秋田県警で夢かなう」 …… 80
小島有子(健康・スポーツ科学科卒)
- 第79回 10月3日放送 「旅が好き、空港が好き—関西国際空港で13年勤務」 岩池久美(英米文学科卒) …… 82
- 第80回 10月10日放送 「おから入り味噌の研究から、甘酒の機能の研究へ」 …… 84
植田愛美(院生活環境学研究所修士修了)
- 第81回 10月17日放送 「一人ひとりの成長する力を信じて—学生の心に寄り添う」 …… 86
堀智美(院文学研究科修士修了)
- 第82回 10月24日放送 「ラジオCMコンテストで受賞—武庫女の魅力をCMで発信」 …… 88
稲垣美香・古谷茉由(情報メディア学科3年)
- 第83回 10月31日放送 「寮生を見守り26年—教育寮の理想を受け継いで」 上原知永(文学専攻科修了) …… 90
- 第84回 11月7日放送 「より険しい山に登りたい—英語を武器に3度の転職」 中岡祐子(英語文化学科卒) …… 92
- 第85回 11月14日放送 「ふと垣間見る能の不思議な世界に魅せられて」 森田彩子(短大食生活学科卒) …… 94
- 第86回 11月21日放送 「赤ちゃんとママの時間を快適に」 平島利恵(英語文化学科卒) …… 96
- 第87回 11月28日放送 「武庫女卒オリンピック—カヌーでオリンピック2大会に出場」 …… 98
金村祐美子(院生活環境学研究所修士課程2年)
- 第88回 12月5日放送 「共通教育科目『本を編む』でもう一つの80年史づくり」 …… 100
豊田莉加・濱田真波(情報メディア学科3年)、湯浅愛理(日本語日文学科3年)
- 第89回 12月12日放送 「ダンス部が私の原点—ダウン症の子と親のサークル立ち上げ」 …… 102
寺本夢(教育学科健康・スポーツ専攻卒)
- 第90回 12月19日放送 「今も現役薬剤師—学院発展期に学んで」 鳥居千恵子(薬学科卒) …… 104
- 第91回 12月26日放送 「今日もラジオからあの人声—暮らしに寄り添うアナウンサーをめざして」 …… 106
鳥田真梨子(日本語日文学科卒)

IV リスナーからのメッセージ …… 108

V あとがき



キャンパスが スタジオになった！



(左から) 蒔田さん、大西さん、塩田さん、渡邊さん



2018年8月10日(金)、オープンキャンパス開催中の武庫川女子大学中央キャンパスで「武庫川女子大学ラジオ-MUKOJOラジオ」初の公開収録が行われました。

.....
通常、収録はFM OH!のスタジオで行いますが、放送回数が70回を超え、番組が浸透してきたのを機にリスナーとの距離を縮めようと公開収録を企画しました。この番組に登場するゲストは卒業生や在学学生、教職員など武庫女に関わる人ばかり。中央キャンパスでの公開収録は、いわば番組の里帰りです。

いつもはソファが並ぶ文学2号館1階玄関フロアにマイクやスピーカー、音響機器など、機材が次々と運び込まれます。FM OH!ののぼりや「MUKOJOラジオ」のパネルで周囲を飾り付けると、校舎の一角がたちまち特設スタジオに変身です。



特設スタジオ準備中

この日収録するのは、8月22日放送と29日放送分。ゲストは男役エンターテイナー・神勢大也として活躍する渡邊翠さんと、「ブラウンスボランティア」の大西陽香さん、蒔田紀子さんの2人。収録開始前、別室で台本を渡し、それぞれ塩田えみさんと打ち合わせを行い、本番を待ちました。

初めての公開収録



収録前の打ち合わせ

午後1時。いよいよ公開収録のスタートです。塩田さんの紹介で、渡邊さんが登場。福島県出身で東日本大震災で被災した渡邊さんが、なぜ武庫川女子大学英語文化学科に進学し、なぜダンスの世界に方向転換したかが、塩田さんの丁寧な問い掛けで、浮き彫りになっていきます。「自分にしかできない男役エンターテイナーをめざしたい」。力強い言葉が続きます。

二組目のゲストが登場すると、客席にはそのTシャツを着た学生がずらり。応援に駆け付けた「ブラ★ボラ」のメンバーです。玄米を使用したメニューの販売と、その売り上げの一部を海外の学校給食プログラムに寄付する活動——。やや硬派な話題を、塩田さんが柔らかく解きほぐします。「多くの人が飢餓状態にあることを見過ごしてはいけない」「武庫女全体でこの活動を盛り上げたい」と

いう、二人の熱い思いも伝わってきました。

会場には、オープンキャンパスに訪れた高校生の姿もありました。塩田さんが「武庫女の印象はどうか」と問い掛けると、「広くてきれい」「女子大生がすてき」「図書館を見てみたい」と、率直な声が返ってきました。保護者からは「キャンパスが広すぎて迷いました。駅から近くて通いやすそう」という声も。

会場のノイズも含めライブ感が加味された放送は、公開収録ならではの味わいがありました。

塩田さんは「聴いている人が目の前にいて表情が見えるのが楽しかった。母校で番組を収録できるなんて感慨深いです。すてきなゲストを育んだ素晴らしい学びの環境を、感じていただけたらうれしい」と話しています。



武庫女発 長寿の秘訣

大豆、魚、減塩で健康に！



ウイグル自治区の住民に
健診をする家森所長

家森 幸男先生

武庫川女子大学
国際健康開発研究所所長



タンザニアでの
健診風景



ユネスコの無形文化遺産に登録された和食の特色は大豆とお魚です。「大豆と魚を常に塩分控えめで摂取するのが健康長寿の秘訣」であることが長年の研究で明らかになり、武庫川女子大学から世界に発信しています。

私が医師になりたての約50年前、日本人の死因トップは脳卒中でした。血管が破れたり詰まったりして亡くなる患者さんが後を絶ちません。脳卒中が特に多い東北地方で塩分の多い食事が好まれることから、食事と病気の関係に注目しました。

まず、研究のために、遺伝的に脳卒中を100%起こすラットを10年かけて作りました。このラットは、味噌汁の塩分と同じ1%の食塩水を与えると、1、2か月後には必ず脳卒中を起こします。ところが、大豆と魚のたんぱく質を脳卒中ラットに食べさせると、脳卒中をなかなか起こさずに天寿を全うするのです。

血管の老化に関わる2大疾患、「脳卒中と心筋梗塞は、栄養で防げる」—このことをラットだけでなく、人で証明するため、世界保健機関を通じ、世界60以上の地域で24

時間の尿を採取して栄養状態を調べる研究を続けてきました。保存食ばかり食べているチベットの人の塩分摂取量は一日平均16グラムで高血圧、脳卒中が多く、塩を持たず、一日の塩分摂取量が2.5グラムのマサイ族には高血圧も脳卒中もなかったのです。塩分を取りすぎると脳卒中による死亡率は明らかに高くなることが分かりました。

一方、大豆のイソフラボン、お魚のタウリンの成分を尿で測定し、世界中の人を大豆と魚の摂取の多少で25のグループに分けたところ、大豆、魚が最多のグループは日本人が9割を占めました。

欧米の人は脂肪の多い肉でたんぱく質を摂取するため、心臓の血管を傷つけて心筋梗塞で亡くなる方が目立ちます。日本人に心臓死が少ないのは、まさにたんぱく質を大豆、魚から摂取する和食のおかげです。ただ、日本人は塩分摂取量が多いために晩年は高血圧から脳卒中を起こして寝たきりになりやすく、健康寿命が平均寿命より10年短いのが現状です。一日に一食でいいから、大豆、魚を適塩で取る食事を心掛ければ、1か月で血圧が下がるなど、良い効果が出てきます。武庫川女子大学ではこうした栄養による健康効果と、体に良いレシピを広める食育先生を育成しています。また、附属高校の生徒たちが、健康によいサラダなどを提案し、地元の企業と一緒に販売する取り組みもしています。武庫川女子大学の知性と活動を生かし、食環境を良くして世界中を健康長寿にしたいですね。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

長寿を実現する和食のメリットについて、武庫川女子大の研究所が明らかにした最新の研究成果を発信できて、うれしく思いました。

2 周りの反響

友人が「分かりやすく、和食の大切さがよく分かった」と言ってくれました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「減塩での食事は無理では？」と言った人には、武庫女の高校生が開発、販売した、塩分が少なくてもおいしいサラダが好評だったという後日談をして、納得してもらいました。

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

MUKOJO ラジオのリスナーに研究成果を直接お伝えし、学問を地域に還元できる楽しさを実感しました。今後もオープンカレッジや食育先生の活動に一層力を入れていきます。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

100周年の頃、本学はおそらく世界一の女子大になっているでしょう。また、日本女性は健康寿命でも世界一になっているはず。人生百歳時代に、本学が健康教育のメッカになる事を期待しています。





加害者の更生支援と 被害者の心のケアに携わって



坂田 美和子さん

臨床心理士

文学部教育学科初等教育専攻
人間関係コース1995年卒

大阪刑務所の処遇カウンセラーとして性犯罪の加害者のグループワークに関わる一方、神戸市のスクールカウンセラーや、ひょうご被害者支援センターの心理相談員、兵庫県警被害者支援室の委嘱相談員として加害者、被害者双方の心の問題に携わっています。

学生のころから、非行少年の背景に関心があり、大学院修了後、非行少年や犯罪被害にあったお子さんのカウンセリングをする兵庫県警の少年補導職員になりました。関わった子どもたちが施設等に送られると、その先は私たちには見えません。大人であれ、子どもであれ、加害した人が施設の中できちんと自分自身と向き合い、二度と罪を犯さない生活ができるよう、私たち心理の専門家にできることがあるなら力になりたい。ちょうど、監獄法が改正されて、受刑者の処遇に民間の心理士が関わることになったのをきっかけに、刑務所で処遇カウンセラーを始めました。

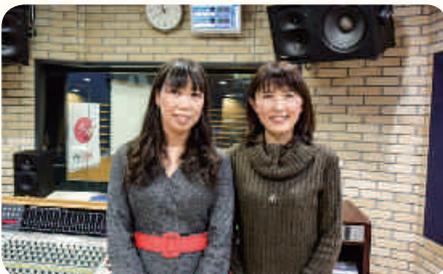
犯罪被害者の支援にも力を入れています。被害者は抵抗できなかった自分に無力感や自責感を抱いて苦しみ、社会や他者、自分自身



まで信頼できなくなって被害回復にもすごいエネルギーを費やします。そういうとき「自分は悪くない」と、思えるようになるために「あのとき、ナイフを向けられて声が出せただろうかと」、認知を修正する働き掛けをしています。被害者も加害者も少しずつ自分を取り戻す過程を目の当たりにするたび、「人は変われる」と強く感じます。

スクールカウンセラーの仕事では、親子関係のすれ違いを橋渡しすることが多いです。子どもは「親にありのままの自分を受け入れてもらえていない」とか、「期待されすぎて本当の自分が出せない」とか、様々に悩んでいますが、親も子どもが何を考えているか分からなくて悩んでいます。親御さんが「どんなあなたでも大切だよ」って、きちんと向き合って言葉で伝えれば、お子さんは安心して他の人間関係もスムーズにいき、めきめき笑顔に変わります。お母さんやお父さんは偉大ななあ、とつくづく思いますね。

私は加害者も被害者も生み出さない世の中にしたい。特に大切と思うのは、小学校入学以前の親子関係です。子育てに悩んでいる親御さんに何らかのサポートができる道を、私なりに探していきます。



ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

とても緊張しましたが、塩田さんが話しやすいように質問してくださったので、話したい内容がスムーズに語れました。武庫女の方々とつながりの糸を塩田さんが紡いでくださっているのだなー、と感じました。

2 周りの反響

クライアントさまの中にたまたま聴いてくれた方がいて、「坂田さんの人柄がよく出ていましたね」というお言葉をいただきました。

3 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

MUKOJO ラジオを通して武庫女の伝統や、学生、卒業生のご活躍を身近に感じるようになり、自分らしく生きることを後押ししていただいている感じがします。

4 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

これまでと変わらず気品を保ちながら、最先端の学びができる学院であり続けてほしいです。世の中がさらに便利になっても、人々がつながって生まれる温かさを忘れない学院であってほしいと思います。





“KAY 本宮”のグローバルに活躍 したい人へのメッセージ



本宮 暢子さん

アリゾナ大学教授
「ACSM (アメリカスポーツ医学会)」フェロー
文学部教育学科体育専攻1979年卒

アメリカでは、旧姓のイニシャルにちなんで「KAY」と、呼ばれています。専門はスポーツ栄養学、健康科学。武庫川女子大学で学んだことが基礎になっています。

大学時代は体育専攻でしたが、英文科に憧れがありました。3年から編入も考えましたが、恩師から「とにかく体育専攻を卒業しなさい、英語はツールとして独学したらいい」とアドバイスされ、思いとどまったんです。恩師の言葉に従って卒業後、語学学校で英語を習得したのが、その後長くアメリカで過ごすきっかけになりました。

オハイオ州にあるアクロン大学で修士課程を修了。健康には運動だけでなく栄養も必要と考え、結婚後、夫の転勤でニューヨークに移った後、栄養学の勉強を始めました。博士課程はスカラシップの勧めを受けてテネシー大学へ。結局、博士課程を含め、12年勤めた後、アリゾナ大学に教授職で就任しました。

アリゾナ大学では、大学と地域のコミュニティーをつなぐ仕事をする「エクステンションスペシャリスト」をしています。学生にティーチングもしますが、アリゾナの地域の人のた



アリゾナ大学で学長や同僚とともに

めになるプログラムを企画して実践するのが主な仕事です。アリゾナ大学はメキシコ国境近くにあり、学生、大学院生で4万人以上。教員3000人のうち、私と同じエクステンションをしている人は100人もいます。やりがいはあるのですが、最初の1、2年は失敗続きで「KAY、何やってんだ」みたいに怒られました。おかげで友達はたくさんできましたけどね。

エクステンションプログラムでは、メキシコをはじめラテン系の学生さんが多く「なんか武庫女の学生と似てるなあ」と、懐かしさを感じます。家族の仲が良くて、素直でまじめで一生懸命。だから違和感なく接することができますね。

グローバルに活躍したい人にメッセージがあります。1つめは、とにかく外に出る。「JUST DO IT!」です。2つめは、自国の文化を勉強すること。食や天気、スポーツ、何でもいいので話せるコンテンツ(内容)を持つ。海外ではいろいろ聞かれますからね。3つめは自分の専門外の人とも自分の考えをオープンに話し合うこと。EXCHANGEすることで、異なる視点が得られて、思わぬ成果につながります。頑張ってください。



テネシー大学時代の恩師と

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

プレゼンテーションと違って、相手の反応が分からない不安がありました。塩田さんがしっかりフォローしてくれました。終わった後、また、ラジオで話したい、と思いました。

収録のとき、夫と後輩夫婦が応援に来て、スタジオのガラスの向こうから、応援してくれました。あのような楽しい時間を持てるのは「Once in a Lifetime」。感謝しています。

2 周りの反響

幼いころ、隣家のお姉さんだった方がラジオを聞いて、「会いたい」と連絡をくださり、55年ぶりに会いました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「ラジオって結構、身近に感じるね」「今度はいつ出るの?」「いつ、(日本に)帰ってくるの?」

4 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

武庫女の卒業生であるという自覚が強まりました。武庫女の輪が広がり、新しいつながりができました。

5 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

積極的に社会とつながりを持ち、世界的規模で活躍できる人材の育成に取り組んでほしいです。



武庫女卒お笑い芸人 異色の兄妹コンビで活躍



星野 舞子さん

お笑いコンビ「ビタミンS」マイコ
生活環境学部情報メディア学科
2004年卒

3歳年上の実の兄と漫才コンビ「ビタミンS」を組んだのは、武庫川女子大学3年のとき。すでに芸人として活動していた兄と、漫才コンクール「M-1グランプリ」に参加したのが最初でした。もともと舞台が好きで、演劇や音楽の活動をしていましたが、お笑いは全く分からず、ただの好奇心。兄の書いたネタで2回戦まで行けて、ちょっと芸能人に会えたのがうれしかった。すると、兄が今度は吉本興業の養成所「NSC」に入ろうと誘ってきて。4年生のときは週5回、NSCに通いました。卒論のテーマも「漫才学」でしたもん。

中高大と武庫川学院でずっと女子だけだったのに、NSCはいきなり男子が9割。“逆武庫女”状態です。同期は、今売れている天竺鼠やかまいたち、藤崎マーケットら強豪ぞろいでしたが、兄妹コンビは珍しいので、若手のオーディション番組や新人賞レースに出してもらい、恵まれていました。

他人同士のコンビは、一度こじれると修復が難しいと聞きますが、相方が家族というのは楽ですね。兄がやたら話し掛けてくるのがうる



さいな、と思う時期もありましたが、それが「一方通行の愛」という漫才のネタになる。父も昔、劇団にいたほどの人なので、私たちが芸人になることに反対はしませんでした。ただ、兄には「妹を守れよ」みたいなことは言ったようです。実際、舞台の上でも楽屋でも、お兄ちゃんは私を守ってくれます。先輩芸人が私の飲みかけの水を飲もうとしたら、兄が一回自分を経由して渡すとか、ほんと「シスコン」のノリで。それも漫才のネタになるんですよ。

附属中高時代はマーチングバンド部に5年間所属しました。高校3年のとき、新しく顧問になった久家亮市先生が熱心で、部を根本から鍛え直してくれました。私たちが卒業して2年目で全国大会に進出し、マーチングバンド部の黄金期を築きました。あの頃の仲間は一生の友達です。今日も「MUKOJOラジオに出るから、みんな、アプリのradikoをダウンロードしてや!」と言ってきました。

今は来月3歳になる長男の子育てに追われつつ、eo光テレビで9年続く冠番組「ビタペディア」をはじめ、ビタミンSの活動を続けています。これからも武庫女卒のお笑い芸人として、ずっと漫才を続けたい。みんなを笑わせ続けますよ!



ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

初めて出演するラジオなのに、ホーム感がすごかったです(笑)。やはり、同じ学び舎で過ごした人同士は、初対面でも、年齢が違っていても、溶け込むスピードが早いなど、改めて思いました。あの頃の記憶がよみがえり、とても楽しかったです。

2 周りの反響

久家先生が、母校のマーチングバンド部全員に告知してくださってうれしかったです。兄からは「お前、しゃべりうまいんかい!」と言われました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

ラジオ放送後、マーチングバンド部のショーや練習を見に行ったとき、部長が「ラジオ聴きました! もっと話聞かせてください」と、駆け寄ってきました。純粹でキラキラした目が印象的で、少しでも力になりたい気持ちが込み上げました。母親のような感覚ですね(笑)。

4 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

武庫女愛がさらに強くなりました(笑)。友達との再会も増えました。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

人とのコミュニケーションや信用を大切にしつつ、最先端なものを取り入れた、「ハイスペックな田舎村」になってほしいです(笑)。



ありがとうの言葉に支えられ 異国で子どもたちを支援



小西 小百合さん

日本国際飢餓対策機構
ボリビア多民族国海外駐在スタッフ
文学部教育学科体育専攻1984年卒

ボリビアのアンデス山脈の村で、教育支援と地域の自立開発支援をしています。

村は標高4000mの高地にあり、1年中気温は低く、朝晩は氷点下になります。反面、太陽に近いため日中の直射日光は突き刺すようにきつい。酸素が薄いので眠りは浅く、疲れがなかなかとれません。主食はじゃがいも、肉は特別な日だけのごちそうです。村の宿泊所でボリビア人のスタッフと月20日ほどの共同生活は精神的に大変ですが、人として多くのことを学んでいます。

この地域は男尊女卑や古くからの因習が根強くあります。貧困のため学校に通えない子どもが多く、とりわけ女の子が学校に行けない状況がありました。そこで「困難な状況にある子どもたちが夢と希望を持って勉強し、健康に育つように」と願い、活動を始めました。手洗いの習慣もなかったので、下痢などで命を落とさないよう保健衛生指導にも力を入れています。

もう一つの目標は、地域全体が真に豊かに自立すること。子どもたちが安心して育つには、子どもを取り巻く環境の整備と大人たちのサポートが欠かせません。そのため地域



ドミニカ共和国で
子どもたちに体操を教える小西さん

に合った農業や貯蓄プログラムでの収入向上、栄養改善や地域リーダーの育成にも取り組んでいます。

この活動に関わったきっかけは、大学卒業後、中学校の体育教師をしていた夏休み、インドで参加したマザー・テレサの「死を待つ人の家」でのボランティアキャンプでした。開発途上国の貧困と飢餓の現実を目の当たりにし、衝撃を受けました。死にゆく人のケアは自分にはつらすぎる。でも、スラム地区の学校で教育支援を受け、生き生きと輝く子どもたちの笑顔を見たとき、「これだ!」と決意したんです。ちょうど母の介護で教職を中断したこともあり、母が持ち直したのを機に、海外スタッフとして活動することに。ドミニカ共和国とペルーに駐在した後、2003年からずっとポリビアです。

「僕のことを考えてくれてありがとう」と言ってくれた青年がいました。小学4年で学校を辞めて働いていましたが、私たちのプログラムを通して復学でき、高校を首席で卒業。農業を身に付けて、今は私たちの団体に働いてくれています。その姿が私にとって何よりのご褒美です。これからも、子どもたちが教育を受けて自信を持ち、生き生きと変わっていくよう、全力でサポートしていきます。



浴衣姿で現地の人たちと交流(ペルーで)

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

母校から声を掛けていただき、うれしく思いました。塩田さんのおかげで、自然体で臨めて感謝しています。

2 周りの反響

反響はとても良かったです。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「すごく落ち着いて話をしていたのと、はっきりとした発音で聴きやすかった。話が分かりやすく、どんな活動をしているのかが良く分かった。支援した子どもの話をされていて胸が詰まって涙声になったとき、私も感動して涙ぐんで聴いていた」との感想をいただき、うれしかったです。

4 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

自分自身の今までの歩みの振り返りと、今後を考える良い機会となりました。

5 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

これからも様々な分野で「夢の実現のために頑張っている女性」を応援して欲しいと思います。



思い出の家具修理します 顧客開拓のカギはブログ



増田 千穂さん

家具修理、オーダーソファ製作、
張り替えの「grow-grow」代表
文学部英米文学科1996年卒



ミシンでソファカバーを作る増田さん

いすやソファを中心に、家具の修理、張り替え、塗装とオーダー製作をしています。家具の修理屋さんには数少ないらしく、個人のお客さまをはじめ、ホテル、オフィスまで、全国から発注があります。まずはお客さまとお話しして要望を聞き、予算に合わせて素材などを検討します。「修理して使い続けたい」ほど愛される家具には、結婚したときに買ったとか、大切な人から譲り受けたとか、みなさん一つ一つ思い出があります。依頼が多いのはダイニングチェア。一日の中で一番過ごす時間が長いんでしょうね。小さいお子さんがいる家なら汚れても拭ける生地がいい、クラシックな柄で落ち着いた感じに、などコミュニケーションを取りながらイメージを作り上げます。お宅に伺うので、女性の方は「女性同士で安心」とおっしゃいますね。

出産後、子育てしながらパートで家具の修理会社に勤め、技術を覚えました。起業したのは6年前。自分が思うような修理がしなかったから。母親がオーダーで服を作る仕事をしていたので、子どものころからモノづくりが身

近だった影響かもしれません。初めはお客さま宅から家具を引き取って、ミシンで縫って張り替えて、また家具を運んで、という一連の工程を全部、一人でこなしていました。ただ、チラシを配るような地道な営業活動をして、なかなか知ってもらえない。ホームページを作ったらどうだろう、と武庫川高等学校（現 武庫川女子大学附属高等学校）時代の友人に相談したら「ブログの方がいいよ」と勧められ、半信半疑で始めたところすぐ反応がありました。今ではブログからのお客さまがほとんどです。

ソファを作る工程は、通常は骨組をつくる木杵屋さんと生地を張る貼り屋さんの分業ですが、当店はどちらもできる職人がいるのでソファを一からすべて製作できるのが強みです。ソファってデザインが気になりますが、部屋とのバランス上、サイズも大事。既製品ではなかなか「ぴったり」とはいきません。

お客さまに「ほんとにきれいになった!」「気に入りました!」と喜んでもらえるときが一番うれしい。これからもお客さまのご要望に応え、すてきな家具をつくっていきます。



椅子の張り替え作業

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

好きで始めた家具のお仕事を具体的、客観的にお話することで、仕事内容と自分自身を見詰め直し、新たな目標を立てることができました。

2 周りの反響

家族は「意外に上手に話していたね」と言ってくれました。会社のスタッフからも「好きなお仕事の話だけあって楽しそうにしゃべっていて、さすが」と言われました。塩田さんの話術とスタッフの方の編集技術のおかげです。

3 2で印象的な言葉、リアクション

お客さまから「私も武庫川の卒業生なのよ」と声を掛けていただきました。

4 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

武庫川の卒業生の多彩さを改めて感じました。卒業生として誇れる仕事をしていきたいと思いました。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

武庫川学院が創立100周年を迎えるころ、私は還暦を過ぎますが、何歳になっても元気で楽しく働いていたいと思います。少子化で消えていく学校もある中で、母校の武庫川学院には女性の活躍につながる教育の場を、末永く提供し続けてほしいと願っています。



羊毛の美しさに魅せられて



本出 ますみさん

原毛屋スピナッツ
／スピナッツ出版 代表
文学部国文学科1981年卒

毛刈りをした羊の毛をイギリスやニュージーランド、オーストラリアから輸入して、原毛のまま売る原毛屋と、糸紡ぎから染織全般をテーマにした雑誌の出版社をしています。日本は約20年前まで羊毛紡績が盛んで、世界でも有数の原毛の輸入国でしたが、今では中国に取って代われ、原毛の輸入量は随分減りました。私の店に買いに来るお客さまはほとんどが趣味の方や作家さん。羊の毛は手で紡いでセーターや帽子、フェルトなどになります。

モンゴルの遊牧民は、羊毛からゲル(移動式住居)を作るのをご存じですか？ 羊肉や乳は食糧になるので、羊さえいれば、衣食住がまかなえる。1万年前、ヒツジを家畜化したことで、人は暮らしを安定させることができたのです。

私は学生時代からテキスタイルに興味があり、卒業後は織物会社に勤めました。たまたま遊びに行ったオーストラリアで羊の毛刈りの場面に遭遇。刈られた毛があまりに美しく、光り輝いて見えたことから、原毛屋になろう！と、その場で決意しました。

京都の町家の2階を事務所にして起業。羊



毛について一から独学しました。ただ、海外の牧場に買い付けに行き羊飼いと交渉すると、羊にまつわる知識量の差を痛感。これはもう、畜産を学問としてしっかり学ばなければ、と30歳を過ぎてニュージーランドのリンカーン大学農学部に留学して学び直しました。

正倉院の宝物に、花氈(かせん)というフェルトの敷物があります。今、その研究をしているのですが、はるか昔の人が作った羊毛の敷物を見て、ああ、私も同じようなものを作ったことがある、と共感したり、やるなあ、とライバル心を燃やしたり。もし、現代の作家さんが作るいろんな作品が後世に残って、100年、200年後の人が見たら、何を感じるでしょうか。まさに布は記憶のメディアです。

先日、卒業以来初めて母校を訪ね、素晴らしい環境で学生時代を過ごせたと、改めて感謝しました。と同時に「もっと勉強しておけばよかった!」と猛省しました。特に化学。今、私が苦戦している染色は化学なんです。染料は薬や食物ともつながります。カレーのスパイスや薬として知られるウコンは、古くから黄色の染料として使われていました。羊肉は食に関わり、羊毛は衣と住につながります。武庫川には薬学も食物も被服も、今私が学びたいすべてがある。貪欲に学ぶべきでした。



ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

武庫川の自由で、一人ひとりを見守ってくれる校風が、今の私を育ててくれたのだと、改めて思いました。

2 周りの反響

大学時代の学友会総務の友人たちとLINEをしているので、みんなが聴いてくれました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「学生時代と全然変わっていないね」「大学4年間は、本当にしたいことを自由にさせてもらえたいい時間だったね」と、しみじみ話しました。

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

大学4年間、という人生の中で最も素晴らしい時間のありがたさを改めて感じました。勉強し続けなくては、とも思いました。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

学部間の留学—自分の学部にごodawらず、学内であれば自由に他学科の授業が聴講できるようになればいいと思います。

大学が若い学生のための学びの舎というだけではなく、すべての人に学びのチャンスを与えるところになればいいと思います。





みんなが笑顔になる クラシックコンサートを



西村 典子さん

大阪アーティスト協会代表取締役
音楽学部声楽学科1991年卒



クラシック音楽のコンサートを中心にマネジメントをしています。クラシックというと、ちょっと敷居の高いオペラやオーケストラをイメージしますが、私たちは音大の先生やフリーの音楽家がリサイタルするお手伝いをする仕事が多いですね。どんなホールを使うか、何人くらいお客さまを呼べるか、から始まり、費用を試算し、希望を聞いて作り上げていきます。クラシックの場合、生音ですから大事なのはホールの響きです。関西にはザ・シンフォニーホールやいずみホールなど、素晴らしいコンサートホールがあります。「ここでやりたい」という夢もそれぞれにお持ちですから、その思いもくんでマネジメントします。

大学時代は声楽学科でしたが、友達の伴奏をしたり、曲を作ってクラリネットやダンスとコラボしたり、変わったことばかりしていました。教職も取らず、就活も一切せずにいたら、担任の先生が「どうするんや」と心

配して、大阪アーティスト協会を紹介してくれました。先生自身がこの協会を通してリサイタルをしていましたから、まあ、先生のお手伝いができるならいいか、と、軽い気持ちです。入ってみたら、100人、200人と、大変な人数のお世話をしなければならない。最初の1年はめまいがしましたよ。

その頃からのお付き合いの先生方が、今も音楽活動を続けていらっしゃいます。大学院生や卒業したばかりの若手をサポートするコンサートもあり、上は90歳代から下は20歳代まで。先日ソプラノの先生が、卒寿の記念に、大阪フィルハーモニー交響楽団をバックに日本歌曲を歌われました。

ステージの緊張を少しでも和らげるのが、私たちの一番の役割かな。長年のお付き合いで、「西村さんがいないと困る」と言ってくださる方もいて、本番が重なると、あちこち行ったり来たり大変です。逆に静かに集中したい人もいるので、その人に合わせて対応を変えます。そういう臨機応変さは、この30年近くで培いました。

終わったとき、お客さんも出演者も、みんな笑顔になっているのを見ると、いい演奏会のお手伝いできてよかったなあ、と報われた気がします。辞めようと思うたび、周りに引き留められ、なんとか続けてきた甲斐があったと思う瞬間です。

ラジオ出演を終えて

- 1 **出演した感想**
良い機会をいただきありがとうございました。
- 2 **20年後、100周年を迎える
武庫川学院に期待することは**
これからもますます発展してほしいです。





誰かのために服を作る喜び キッズドリームウェアに参加して



野上 采加さん

生活環境学部生活環境学科4年

「キッズドリームウェア」は大学生活環境学科と短大生活造形学科、附属幼稚園がコラボレーションして2012年に始まりました。幼稚園の5歳児がデザイン画を描き、学生が衣装に仕立てます。私は2年生から参加し、今年で3回目。絵が子どもの思いをすべて反映しているとは限らないので「ここは何色?」「どんな形がいい?」と、何度も聞き取りをして採寸から完成まで半年近くかかります。授業の課題に追われながらの制作は大変ですが、すごく喜んでくれるので「作ってよかった!」と思います。2016年からは子どもたちがモデルになってファッションショーも行っています。衣装を着てうれしそうに歩く子どもたち、本当にかわいかった!

大人と違って、子ども服は成長分を見込んで作らないと、出来上がったころにはきつくなってしまいます。体のわりに頭が大きいので、被りの服を作ったら試着で頭が通らなかった、という失敗もあります。私は「水族館に行く服」なら魚のマスコット、「ケーキ屋さん」ならホールケーキの帽子などテーマに



キッズドリームウェアファッションショーで、
担当した男の子の衣裳を紹介する野上さん

合わせて服に飾りをいっぱいつけてあげます。今年担当した男の子は虫が好きなので、フェルトでカブトムシを作ってマジックテープで好きなところに貼りつけられるようにしました。

小さいころから服が好きで、将来はアパレル関係に進もうと決めていました。武庫川女子大学は縫製などテクニカルな面と、染色や繊維学など科学的な知識の両方を学べるのが魅力です。福岡県出身で関西に来たのは修学旅行くらいでしたが「この大学なら」と進学を決めました。

キッズドリームウェアに取り組む一方で、エアロビックダンス部に所属し、文化祭などで使う衣装も手掛けました。実際に衣装を作ることで技術も磨かれるし、何より「誰かのために服を作る」ことはやりがいがあります。こうした活動を通して、アパレルより舞台衣装により強く引かれるようになりました。

だから、宝塚舞台に就職が決まり、宝塚歌劇の衣裳に携われることは、ミュージカル好きの私にとって二重の喜びです。衣裳を作るだけでなく、公演の着替えのフォローも担当します。早替わりは宝塚歌劇の魅力の一つなので、早く現場のあうんの呼吸が通じるようになりたい。いつか、トップさん付きの担当になれたら最高です。



ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

先にMUKOJOラジオに友人が数人出演していて、すごいなあ…と思っていたので、お話をいただいた時は私が!?と驚きました。初めてのことばかりですべてが新鮮で、卒業間近にまた一つ大きな経験をさせていただきました。

2 周りの反響

友人が連絡をくれたり、先生方が声を掛けてくださったりしました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「上手に話してたね」「頑張ってますね」と言っていただし、うれしかったです。

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

これまでの自分自身を振り返り、これからについて考えるきっかけになりました。次なる目標に向かって頑張りたいと思いました。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

武庫女で学び、キッズドリームの活動も含め様々な経験ができたからこそ、夢を見つけることができました。本当に貴重な4年間であったと感じています。これから学生が様々なことに挑戦でき、夢や目標を見つけられる場所であってほしいです。





歌うことは宝物 女優として成長めざす



吉里 瞳子さん

音楽療法士 音楽学部助手 女優
音楽学部声楽学科2008年卒

2017年、日本とバチカンの国交樹立75周年を記念してイタリアのセッコ、ミラノの2都市で行われた「オペラ『高山右近一至福の王者』～剣か愛か～」に細川ガラシャ役で出演しました。バチカン市国のローマ法王の謁見式でこのオペラの楽曲を披露したときは、厳かな雰囲気に感激しました。法王の法衣に触れることができるほど近い距離で、祈るために集まった1万人もの人々が見守る中、何か温かいものに包まれながら歌ったことは忘れがたい思い出です。

大学時代は音楽療法コースでしたが、先生の熱い指導でオペラも歌える歌唱力がつきました。4月に芦屋・ルナホールでオペラ「カルメン」にフラスキータ役で出演します。他のジブシーとのアンサンブルが多い役で、キャラクターの作り込みに今ちょっと苦戦中です。

演奏活動の傍らこの3月まで7年間、音楽学部助手として大学に残り、音楽療法研究室で音楽が人の心や体に及ぼす様々な影響について共同研究を続けました。学生の臨床実習



レストランでのコンサート

を兼ねて、子どもたちの成長を音楽療法でサポートしたり、栄養科学研究所とコラボレーションして、音楽で高齢者の健康増進をめざしたり。音楽の多様な要素を提供して、受け手と一緒に一つの世界を作り上げる音楽療法は、舞台や映像などクリエイティブな領域に通じると感じています。

ミュージカル出演をめざして事務所に所属したのをきっかけに、テレビドラマに出演する機会も増えてきました。初セリフは大ヒットドラマ「半沢直樹」(2013)。エキストラで参加していたら、監督から「このセリフ言ってみて」と現場で指名されました。夢中でしたが、すんなり OK が出て。映像って面白いんだ!と、新しい世界が開けました。「ルーズヴェルト・ゲーム」や「下町ロケット」では、ちゃんと役が付きました。今後は演奏活動と並行して、女優として活動の幅を広げていきます。

私にとって「歌うこと」は神様からもらった宝物です。歌うこと、お芝居することを通して何かを伝え、誰かの役に立ちたい。それが宝物を受け取った責任だと思っています。



オペラ「カルメン」にフラスキータ役で出演(右)

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

「MUKOJO ラジオを聴いたら他の学部のこともいろいろと分かるんだ」と他学部に興味が湧きました。大学全体の関心につながってとても良い機会でした!

2 周りの反響

以前、出演した後輩や武庫川に勤めている先輩などから、「聴いたよー」と言ってもらいました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「普段の声と印象が違った」と言われました。花粉症で少し鼻声だったこともありますが、見た目と声だけの印象がかなり違うみたいですね。意外な発見でした。MCや朗読のお仕事もあるので、参考にしています。

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

自分の声に関心を持つようになりました。最近は声だけのパフォーマンスも豊かに表現できるよう、心掛けています。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

武庫女卒を誇りに思っている卒業生が多いように思います。

もっと自分の大学を好きになれるよう、武庫女のことをたくさん知る機会があるといいと思います。その一つとして MUKOJO ラジオはすごくすてきななあと思います。



子育て家族の応援冊子 KID'S SMILE 2018 を発行



「KID'S SMILE 2018」の作成に
取り組んだゼミ生たち（前列左が庄司
さん、後列左から2人めが中川さん）

庄司 直子さん
中川 歩実さん

文学部教育学科4年



阪神電気鉄道株式会社とコラボレーションして、子育て中の家族を応援する情報誌「KID'S SMILE 2018」(A4判16ページ)をゼミの4年生7人で制作しました。阪神電車が運行する西代駅(神戸市)から大阪難波駅までの沿線情報を掲載し、3万部作って、沿線の主要な駅で無料配布しています。

この情報誌は前身の「mama's smile」を含め、私たちが所属する西本望ゼミ(幼児教育学)で2011年から取り組んでおり、毎年、少しずつテーマを変えて新情報を掲載しています。前半は、親子で遊べる公園と雨の日に遊べる施設をカラー写真入りで紹介しています。みんなで公園を見て回り、実際に遊具で遊んで魅力を確かめ、分担して紹介文を書きました。人に楽しさを伝える文章を書くのは難しく、悩みましたね。後半は学生が主体になって作成したページです。まず、附属幼稚園を中心に、小学校卒業までのお子さんを持つ保護者285人に「ふれあい遊び」をテーマに、アンケートを実施しました。質問

は一つ一つみんなで考えましたが、聞きたいことが多くてかなりのボリュームになりました。

その回答をもとに、リクエストの多かった手作りおもちゃ、季節の遊びなどをイラスト入りで載せています。紙コップとビニール袋で作るびっくり箱は手軽で結構盛り上がります。季節遊びなら、春はシロツメクサの花冠。花の部分をつなげて輪にします。秋はどんぐりごま。形によって回り方の違いも楽しめます。公園で花や実を見つけて自然遊びを楽しんでもらえたらうれしいですね。

私たちはこの春から保育士(中川)や幼保連携型の認定こども園の保育教諭(庄司)など、幼児教育の現場で働きます。学生のうちに保護者の方と接し、どういう支援が必要か聞くことができたのは、良い機会でした。卒業後は子どもたちと向き合うと同時に、保護者の方の希望をくみ取り支援していきたいですね。また、情報誌を作るにあたり阪神電鉄の担当者と何度もやり取りを重ね、社会人としての礼儀や責任感を学べて少し成長できたかなと思っています。



イラスト満載で見やすい「KID'S SMILE」

ラジオ出演を終えて

庄司 直子さん

- 1 **出演した感想**
KID'S SMILE を作成した思いを伝えることができ、うれしかったです。
- 2 **周りの反響**
出演する前は「すごい!」「なんで!?!」という反応が多かったです。駅でKID'S SMILEを見つけて読んでくれた人もいました。
- 3 **出演の前後で
気持ちや暮らしに変化は**
一つの大きな活動をやり通し、多くの人に知らせることができたことに達成感があり、自信につながりました。
- 4 **20年後、100周年を迎える
武庫川学院に期待することは**
学生がそれぞれに目標を持ち、意思を持ち、自信を持って夢に向かうことができる、そんな大学であればよいと思います。

中川 歩実さん

- 1 **出演した感想**
自分たちが作り上げたものをラジオで取り上げていただき、うれしく思いました。
- 2 **周りの反響**
「ラジオに出る」と報告すると、周りは驚きながらも、よかったねと言ってくれました。
- 3 **2で印象的な言葉、リアクション**
母から「こんな機会はないから、お母さんも聴くね」という言葉をもらいました。
- 4 **出演の前後で
気持ちや暮らしに変化は**
自分の言葉で伝えることの難しさと楽しさを同時に感じました。
- 5 **20年後、100周年を迎える
武庫川学院に期待することは**
私自身、とても楽しく充実した学生生活を送ることができたので、この先も武庫川学院で学ぶ学生がそう感じられる環境であればいいと思います。



卒業式を終え、衣料研究者の道へ



柿崎 優さん

生活環境学部生活環境学科4年

昨日が卒業式でした。4年間はあっという間でしたが、アパレルコースでは縫製をはじめ、パソコンを使ったCG実習やデザインの実習、いろいろな実験もできて、理論から実技まで幅広く学ぶことができ、とっても充実していました。卒業後はスポーツメーカーのデサントの品質開発課に就職します。学生時代に学んだことが仕事に結び付いて、夢がかないました。

衣料の品質に興味を持ったのは、大学3年のとき。衣料管理士1級を取るために、学外で品質管理の現場を体験する授業を受けたんです。洗濯で色落ちや色移りしないか、引っ張りに耐えられるか、摩擦で表面が傷まないか、日焼けや汗による変色など、たくさんの試験を経て私たちの手に服が届くのを知りました。卒論にも品質管理の手法を取り入れて、4歳から続けているクラシックバレエで、以前から感じていたウェアの着心地や機能性を試しました。

テーマは「バレエウェアの着心地と機能



卒業論文の掲載誌

性」。水泳や陸上など、他のスポーツでは機能性がどんどん追究されていますが、バレエは見た目重視で、機能性は二の次という傾向があります。実際、バレエをしている人にアンケートを取ると、みなさん、華やかさや色など、デザインで選んでいることが分かりました。でも、いろいろな素材のバレエウェアで品質をチェックしたら、乾きや伸び、肌触りなどに違いがある。乾きやすく、肌触りがよくて伸びのよいウェアが開発されたら、もっと快適に踊れるんじゃないか、と思いました。

私にとってバレエは生活の一部です。コンクールなどの舞台上でスポットを浴びたことも、けがをしたこと、うまくいかず悩んだこともあります。諦めずに頑張ってきたから今がある。仕事という新しい世界を前に、期待と不安でいっぱいですが、バレエで培った粘り強さを発揮して、前向きに頑張りたい、社会人としてすてきな女性になりたいな、と思います。



バレエウェアの機能性について、卒論発表

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

ラジオ番組の出演は初めてで不安でしたが、塩田さんのお話も弾み、楽しかったです。普段は経験することができない貴重な機会となりました。

2 周りの反響

家族や会社の方から、上手にトークしていたとお褒めの言葉をいただきました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

予想以上に多くの方がラジオを聴いてくださっていたので、驚きました。

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

ラジオに出演したことで、丁寧な言葉遣いにより気を付けるようになりました。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

高校生のとき、武庫女のオープンキャンパスで学生や学校の雰囲気の魅力を感じ、入学しました。入学してからも、勉強に行事に期待通り、たくさんの友人と楽しい学生生活を送ることができました。これからも、さらに魅力のあふれる学院になってほしいです。



全国大会常連の実力派 伝統の附属中高コーラス部



(左から)
岡本教諭、陶山さん、長田さん



長田 紫苑さん
武庫川女子大学附属高校3年

陶山 桃花さん
武庫川女子大学附属高校2年

岡本 尚子教諭
コーラス部顧問



岡本：尼崎市の公立中学校からこの学校に転任し、伝統あるコーラス部顧問を任されて12年が経ちました。全日本合唱コンクール全国大会に高等学校は連続25年、中学校は連続27年出場中。「コーラスの甲子園」といわれるNHK全国学校音楽コンクール全国大会は高校が16回、中学は15回出場し、2017年度は中学校、高等学校がダブル出演しました。生徒たちの頑張りの成果です。

長田：私は先日、高校の卒業式があり、答辞を読みました。歌が大好きなので、4月から武庫川女子大学の音楽学部に進んで音楽を勉強します。振り返れば、コーラス部ですごく充実した6年間を過ごせて幸せでした。練習で岡本先生に怒られると、みんなになくそって気持ちが芽生えて、どんどん歌がよくなっていくんです。たくさんの大会や舞台に立ち、歌で感動を届けられることがこんなにうれしいんだ、というのを学べました。アイルランドで国際コンクールに出演したのもいい思い出です。観客が明るくて、拍手や足踏みや歓声で盛り上げてくれ

て、お祭りみたいでした。出場した32団体のうち、上位11団体に入って本選に進み、総合4位を受賞しました。

岡本：厳しい練習につれてきているからね。練習で、音程がちょっとでもずれたら、ちがーう!って。合唱は言葉が大事だから、ちゃんと相手に伝わるような、発音にもこだわります。日本語だけでなく、ドイツ語も英語もありますから、私も生徒と一緒に勉強しています。

陶山：新部長として、先輩方の築いた伝統を引き継げるか不安でいっぱい。大会の連続出場記録を途切れさせてはいけない、というプレッシャーもあります。練習は厳しいけれど、歌うことで誰かの力になれている、と感じると、歌を続けてきてよかったなと思います。普段は中高分かれて練習しますが、高校生が中学生を教えることもあり、仲がいいんです。私たちの学年は人数が少ないのですが、最高学年としてしっかりまとまって、縦と横のつながりを大切に、みんなを引っ張っていきたい。目標は2つの大会で全国大会出場、さらに、全日本で金賞。NHKは入賞をめざして頑張ります。

長田：OGとしてこれからも後輩を応援していきます!



ラジオ出演を終えて

岡本 尚子先生

1 出演した感想

生徒のハキハキした受け答えを見て、成長したなあと、誇らしく思いました。

2 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

世界平和や社会に役立つ人材を世に送り出す学校になっていること。そういう教育を、私たちがしていかなければならないでしょう。

長田 紫苑さん

1 出演した感想

思っていたことが整理され、大学生になっても頑張ろうと決意できました。

2 周りの反響

友達から「さすがコーラス部の部長だね!」、家族から「ラジオでもこんなにしゃべれるようになったんだね」と言われ、うれしかったです。親戚の「6年間、よく頑張ったね」の言葉に、頑張ってきてよかったと、しみじみ思いました。

3 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

改めて、後輩たちの頑張りを自慢に思います。

陶山 桃花さん

1 周りの反響

いろんな人が聴いてくれて「ラジオなんてすごいね」と、言ってくれました。

2 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

もっと武庫女のコーラス部を知っていただきたいと思い、いっそう、活動を頑張ろうと思いました。

3 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

自発力があり、何事にも熱中し、一瞬一瞬を大切にしている人たちが集う、熱い学院になってほしいです。



英語プレゼンコンテストで 全国優勝の快挙



本田さん（中央）を含む3人が
武庫川女子大学からファイナリストに

本田 諭美さん
文学部英語文化学科4年

清水 利宏先生
英語文化学科准教授



本田：「香港杯全日本大学学生大使英語プログラム2017-2018（英語プレゼンテーションコンテスト）全国大会」で優勝しました。この大会では、英語のプレゼンテーションを通じて、香港への関心を高め、日本と香港の相互理解の懸け橋となる学生大使を選出します。プレゼンは6分間。ビジネス、マスコット、香港留学、観光の4つのテーマから私は「観光」を選びました。架空の観光番組「Satomi's Neighboring Show!」のテレビ司会者になりきって、観光地化していない地域にスポットを当て、香港の新たな魅力を伝えました。

実は香港には行ったことがなかったんです。周辺地域は情報が少なく、香港好きの友人に話を聞くなど、リサーチに苦労しました。

清水：本選に進んだファイナリスト15人のうち、3人が武庫川女子大学英語文化学科の学生でした。優勝した本田さんのほか、オリジナルのパペット（手人形）を作り、腹話術を交えてプレゼンした小澤磨有理さん、“8”にまつわる香港ツアーを提案した越智真美さん。複数のファイナリストを出したのは本学だけです。

プレゼンで大切なのは、まず、テーマの選び方。どこに焦点を当てるかが重要です。次に、どういう構成でどういう言葉で伝えれば、誤解なくストレートに伝わるかを考えること。ジェスチャー、口調、表情など、効果的に思いを伝えるための、あらゆる要素を研究するのが、私が専門とするスピーチ・コミュニケーションという学問です。

本田：普段は面白い先生ですが、コンテスト前の指導は、ビシバシ厳しいです。私は表情を特に指導されました。自分では笑っているつもりだけど、写真やビデオに撮ってみると、全然笑ってない。

清水：声や顔の表情が言葉のメッセージよりも重要であることは研究でも明らかです。聞く側が楽しくなるような120%の笑顔、120%の張りのある声を出せるよう、特訓しました。一見、アドリブのように見える足の動きや手の出し方一つまで、実は全部作り込んでいるんですよ。

本田：会場に着いた瞬間から満面の笑みで最後まで笑えと言われ、笑い通しました。優勝という結果を得て、学生大使として香港研修に行き、新たな刺激を受けました。

清水：本田さんには今後もスピーチの表現力を生かして、社会に役立つメッセージを発信してほしいですね。



学院長、学長に優勝の報告

ラジオ出演を終えて

本田 諭美さん

1 出演した感想

簡潔に分かりやすく話す難しさを身に染みて感じました。

2 周りの反響

同じゼミの仲間や、一緒に香港杯で入賞した香港大使の友人も聴いてくれました。友達が「かっこよかった」と言ってくれてうれしかったです。

3 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

日ごろから、どうやって話すとか分かりやすく伝えられるかを、考えるようになりました。日本語を話すときも、英語スピーチのときのようにハキハキ話そうと心掛けています。

4 20年後、100周年を迎える

武庫川学院に期待することは

学生たちが生き生きとキャンパスライフを送り、全国に名が知れ渡る学院になってほしい。学外の英語のスピーチ大会で、強豪校として知られるようになってほしいですね！

清水 利宏先生

1 周りの反響

授業を担当する学生が聴いてくれたようです。家族も楽しんでいました。スタジオの楽しい雰囲気伝わったようでうれしかったです。ラジオの醍醐味です。

2 20年後、100周年を迎える

武庫川学院に期待することは

すべての学生が、自分の得意分野で大きく活躍できる舞台であってほしい。武庫川学院の一員として、そうなるよう努めてまいります。



共通教育科目初 「アウシュビッツツアー」に参加して



アウシュビッツツアーに
参加した学生たち
(中央は河内鏡太郎教授)

岡田 紗瑛さん

薬学部薬学科3年

山本 百合恵さん

薬学部健康生命薬科学科4年



(左から) 山本さん、(塩田さん)、岡田さん

岡田: 共通教育科目「アウシュビッツ 戦争と女性」という授業の履修生を中心に、ポーランドのアウシュビッツを訪ねるツアーが2018年春、初めて企画されました。授業は毎回とても密度濃く、泣ける内容なのでツアーにもぜひ参加したいと思いました。アウシュビッツに特化して旅するというのも、なかなかできない経験なので。

山本: この授業の初回、先生の第一声は「アンネ・フランクが生きていたら88歳」でした。「私の祖母と同世代だ」と思ったら、遠い国の昔の女の子と思っていたアンネの存在がすごく身近になりました。その祖母が亡くなったとき、ちょうどツアーの募集があったんです。祖母に聞けなかった分も戦争のことをちゃんと知りたい、と参加を決めました。

ポーランドのクラコフからアウシュビッツ強制収容所へ。悲劇の現場はなるべく手を加えず、当時のまま残されています。ユダヤ人が到着してすぐ、生死を選別された場所に立ち「ガス室送りになった人たちはどんな気持ちでガス室までの道を歩

いたのだろう」と、胸が詰まる思いがしました。事前に写真資料は見ていたが、室内の凍える寒さや砂利を敷き詰めた足元の悪さなどは、現場に行かなければ味わえないものでした。

岡田：ユダヤの人が身に付けていた眼鏡や刈り取られた髪の毛などが展示されていました。骨と皮だけにやせた子どもたちの写真が、薬物の人体実験の被験者のものと聞いたときの衝撃は大きかった。命を救う薬が大変な犠牲の上に成り立っていることが、強く印象に残りました。

山本：アウシュビッツの後、ワルシャワ大学を訪れ、日本学科の学生たちと交流したのも有意義でした。彼らの方が日本語が正確で発音もきれいなんです。ショパンゆかりの地では、街の誰もがショパンや教会の建築様式について詳しく語ってくれて、街に対する愛着を感じました。

岡田：この旅を通して医療関係者が守るべき倫理とは何か、を自分なりの課題として考えてきましたが、答えはまだ見つかりません。この問いは一生考えていくべきことだと心に刻み、薬剤師を目指して進みます。

山本：自分たちが良かれと思って研究したことが、誰かを犠牲にすることもある。そのことに気づく力と、時には引き返す勇気を持ちたいと思いました。



死の壁に花を手向ける学生たち

ラジオ出演を終えて

岡田 紗瑛さん

1 周りの反響で 印象的な言葉、リアクション

両親は自分の娘がラジオに出たことに驚いていましたが、「よかったよ。人見知りでありしゃべらない子どもだったのに、ラジオでハキハキしゃべっていて、成長したね」と言ってくれました。とてもうれしかったです。

2 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

ラジオ出演をきっかけに、アウシュビッツツアーに参加した仲間たちと、より仲良くなれました。

3 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

在學生が「武庫女が一番いい学校」と感じられる、今以上にすてきな学校に成長してほしいと思います。

山本 百合恵さん

1 周りの反響

「よい勉強をさせてもらったね」と、みなさんに言われました。「アウシュビッツは怖いイメージがあったけど、現地に足を運んで、自分の目で確かめたいと思った」と言う人もいました。

2 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

話すとき、どのような言葉を選択すべきか、常に考え、発信する言葉に責任を持つようになりました。

3 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

幅広い教養や豊かな人間性を兼ね備え、世界でも活躍できる女性を、さらに多く育成できるような教育の場として確立されてほしいと思います。



日本語を学ぶ外国人を親身に指導



石上 統子さん

大阪YMCA学院日本語学科教員
文学部日本語日本文学科2013年卒

大学に入学してすぐ、日本語学習者との交流会に参加したんです。たどたどしい日本語で、日本で頑張ろうとする姿を見て、何かお手伝いしたい!と思ったのが、日本語教師をめざしたきっかけです。私、和の文化が好きなんです。大学時代は箏曲部で、最近は和太鼓を習っています。外国の人に日本の文化を楽しんでもらいたい、という気持ちが潜在的にあったのかも。

大学では、教授法を学んだり、教案づくりに取り組んだり。韓国で日本語を教える実習もありました。友達と夏休みに集まって準備し、自信满满で先生に模擬授業を見てもらったら、即座に「そんなんじゃ駄目よ」って止められてしまって。日本語教育を熟知した先生の厳しい指導は、本当にありがたかったですね。

大阪YMCA学院日本語学科では、学生のレベルに応じてクラスが分かれています。学生は台湾や中国、韓国などアジア圏の20～30歳代が中心。初級クラスでは、自己紹介や「ここは教室です」など基本の文から教えま





2018年4月18日放送

第

55回

す。英語学習の「This is a pen」と同じですね。次に「ここ」「あそこ」などの指示語、「あの人は誰ですか」など疑問文に進みます。非漢字圏の学生には、謙譲語や尊敬語など種類の多い日本語の敬語が難しい。「電車を乗り換える」と「電車に乗り換える」のように、助詞の使い方で意味が変わるのも混乱するので、何度も繰り返し説明するポイントです。

ある程度話せるようになると「自分の言い方が日本人を傷つけていないか不安です」と、ニュアンスを気にする声も聞かれます。外国の人は日本人が傷つきやすく、ストレートな表現を嫌うと思っているみたい。上級クラスになると、日本人より日本語の理解が深いです。

学生時代、日本語学校のお手伝いをしていたとき、留学生に「ありがとう」と言われて恥じ入った思い出があるんです。私は指示されるままに動いただけで、お礼に値することは何もできていなかったから。プロになった今、「ありがとう」を胸を張って受け取れる先生になりたい。「今日の授業すごく楽しかった!」、「先生の授業、大好き」と言われると、頑張ってたかっと思えます。



ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

ちゃんと話せるかな、と不安でしたが、実際に出てみると、周りの皆さんが優しく、楽しく話をすることができました。

2 周りの反響

友人に出演を内緒にしていたので、放送が終わってから報告したら、ちょっと怒られました(笑)。ゼミの先生からはすぐに感想のメールをいただきました。仕事ぶりが伝わってきたと好評で、実習の準備をした時のことを一緒に懐かしんでくださいました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

え!いついつ!
はあっ?!なんでもっと早く言わへん!

4 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

日々思っていました。教師になったときの決意を口に出し、多くの人に聴いてもらうことで、心に再度刻み、初心を思い出すことができました。また、ラジオ出演のことを思い出すたびにいつも新しい気持ちで日本語を教えることができるようになりました。

5 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

学生が目標を持って過ごせる大学になればいいと思います。また、卒業生が行きやすい大学になってくれるとうれしいです。



笑顔がはじける幼稚園 遊びから生きる基礎学ぶ



大江園長（中央）と西森先生（右）

大江 嘉津子先生

附属幼稚園園長

短期大学初等教育科1975年卒

西森 遥先生

附属幼稚園教諭

文学部教育学科2017年卒

大江：附属幼稚園は1979年に復活開園し、2019年に40周年を迎えます。今では親子2代で附属幼稚園卒という方も多いです。女子大附属ですが、幼稚園は男女共学ですから、男の子が2代目、3代目として通って来られるご家庭もあります。

私自身、武庫川学院の中高から短大に進みました。当時、短大は人数が多く、初等教育科は特にAからHまでクラスがあり、F組までが小学校教諭、GとHが幼稚園教諭を目指すクラスでした。公立幼稚園で長年勤め、2015年に母校の附属幼稚園に園長で戻ってきました。

西森：私は幼稚園児だったころの先生が大好きで、幼稚園の先生になりたい、と思って幼稚園教諭育成に定評のある武庫川女子大学に進みました。卒業後、附属幼稚園の先生になり、今、3歳児を受け持っています。毎日子どもたちが「せんせい！」と笑顔で登園してくれるのがうれしくて。体力には自信があったんですが、子どもたちのパワーにはかないません。

心掛けているのは、子どもたちの「これやりたい！」という思いに寄り添うこと。夢中で取り組み「できた！」という瞬間、子ども



たちは本当にキラキラしています。

大江：私は逆に子どもたちからパワーをもらっています。大学附属ならではの、大学と連携した事業がたくさんあります。図書館で子どもたちがセラピードッグに絵本を読み聞かせる「READ PROGRAM」、園児の絵をもとに学生が服を作る「キッズドリームウェア」など。

園庭が広く、施設が充実しているのも特色です。園舎は2015年にリニューアルして、特に絵本の部屋がすてきに生まれ変わりました。円形の本棚に4000冊の絵本があり、園児たちは子ども用の可愛いソファで顔を寄せ合い、夢中で本を読んでいます。

西森：初めてその部屋に入った子どもたちは「わあー」って大興奮です。

大江：幼稚園の原点はやはり「遊び」です。生涯にわたって生きる基礎になる力を、遊びの中から見つけてほしい。そのために、「今日は楽しかった」「明日また来たい」と思える幼稚園を目指しています。保護者にとって、幼稚園はお子さんを初めて社会に送り出す場所ですから、親子共に楽しんで過ごせる幼稚園でありたいですね。

西森：お友達大好き、幼稚園大好き、という気持ちを大切に、子どもたちに寄り添っていきます。



美しい園舎と広々とした園庭で
伸び伸び遊ぶ園児たち

ラジオ出演を終えて

大江 嘉津子園長

1 周りの反響

武庫女の卒業生でもある叔母は新しくラジオを買って、放送を楽しみにしていました。武庫女時代の友達からはLINEで「園の様子が、いい感じで伝わってきたよ」と感想をもらって面はゆかったです。姪からは「質問の答えは用意していくの?」「きちんと幼稚園の理念をお話していてよく分かったわ」と感想のメールがすぐに届きました。

2 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

一言一言の言葉の持つ力を感じました。

3 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

不易と流行を大切に、充実発展して活気ある学院になっていく姿を思い浮かべます。

西森 遥先生

1 周りの反響

遠い親戚も録音して何度も聴いてくれたり、この回からMUKOJOラジオを聴くようになりしてました。「子どもが、園長先生と西森先生の声がするって喜んでいました」と、保護者から聞きました。「幼稚園は男の子もいるんだね」という声がありました。

2 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

ラジオをより注意深く聴くようになりました

3 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

より活気ある、学びの場になればいいなと思います。



武庫女の今を、 You Tube で毎日配信



(前列左から)
池原さん、澤村さん、松尾さん



松尾 有紀さん
生活環境学部情報メディア学科4年

澤村 優海さん
情報メディア学科3年

池原 佳澄さん
情報メディア学科3年



ICTヘルプデスク前のモニターでも放映

ICTは、インフォメーション、コミュニケーション、テクノロジーの略で、通信技術を使ったコミュニケーションという意味です。武庫川女子大学では 2017年4月、キャンパスの360か所にWi-Fiポイントを設置したり、無制限に情報を保存できるクラウドサービスを始めたり、最新の ICT環境を整備しました。スマホやパソコンで困った時に相談できるICTヘルプデスクも開設しました。こうした環境があるのに、知らない人が多いのはもったいない!ということで、ICTヘルプデスクの中に、PRを担うボランティアを立ち上げました。

主な活動はYou Tubeで平日の昼休みに毎日15分、生配信している「武庫女ライブストリーム」です。2017年6月からスタートし、2018年6月に放送100回を迎えました。ICTヘルプデスクの一隅にスペースをもらって、パソコンのカメラに向かっておしゃべりするんです。松尾と澤村のコンビでスタートして、松尾が就活で忙しくなってからは、池原と澤村がコンビで出演することが多いです。ライブネームは、松尾が「ゆうきまお」、

澤村が「ながせゆゆ」、池原が「山田キャサリン」。台本は特になくて、武庫女のニュースを中心に、女子大生の等身大のフリートークを展開しています。

一人でしゃべるときもあるんですが、やっぱり2人の掛け合いの方が見ている側も楽しいし、話が盛り上がります。映像も配信されるので、視覚的にも楽しんでもらおうと小物をあしらったり、見せ方を工夫する余裕も出てきました。月から金曜の帯番組ですから、女子としては同じ服が続かないよう気を使いますね。

初めは「ちゃんと届いているのかな」と不安でしたが、今では学内で「見てるよ」と声を掛けられることもあり、アクセスも増えています。少しずつ視聴者の姿が見えてきて、目標だった100回を超え、頑張ってたかなと思っています。この活動を通して、すでに就活真っ最中の松尾をはじめ「放送関係の仕事に就きたい」（澤村）、「テレビの制作に携わりたい」（池原）と、それぞれの夢も明確になりました。未来につながる ICT ボランティアの活動を、今後も受け継いでいきたいですね。



パソコンの前で生放送中の澤村さん(左)と池原さん

ラジオ出演を終えて

松尾 有紀さん

1 出演した感想

第1回から聴いていた憧れの番組なので、緊張しました。

2 周りの反響

教育実習先の附属中高で「ラジオ出演なんて、すごいね」と言われ、ラジオの影響力に驚きました。「自分も出演してみたいな」と言ってくれた生徒もいました。

3 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

一人ひとりが卒業後も「武庫川女子大学」を背負って頑張ってほしいです。

澤村 優海さん

1 周りの反響

家族と聴いたので、少し恥ずかしかったです。高校時代の友人から、久しぶりに電話がありました。

2 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

附属中高の放送部時代を思い出し、何か一つのことを全力で取り組みたいと強く思うようになりました。

3 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

伸び伸びと、歴史と伝統を大切に武庫川学院らしく成長してほしいです。

池原 佳澄さん

1 出演した感想

武庫女ライブストリームを始めてから、目標だったラジオ出演がかない、うれしかったです。

2 周りの反響

両親が「普通では体験できないことをできてよかったね」と、言ってくれました。

3 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

世界中から学生が集まる学校に!



ものづくりの技術を守りたい 従業員から社長に



鯛 かおるさん

株式会社アトラステクノサービス
代表取締役
短期大学部家政科1987年卒

食品用や工業用の循環ろ過装置と真空フ라이어の製造販売会社を運営しています。高真空下で特殊な乾燥食品を作る真空フ라이어は私たちの主力商品です。この機械を広く世界に売り出すとともに、野菜チップスを商品化しています。

今の私からは想像もつかないけれど、学校の通信簿のコメント欄に「勇気を出して手を挙げましょう」と書かれるような、おとなしい子どもだったんです。短大時代もその性格は変わらず、「大企業は無理。地元神戸を離れたくない」と、就活も消極的でした。ただ一つ「食に関わる仕事がしたい」という希望を持っていたところ、先生からぴったりの仕事を紹介してもらって。食用油のろ過装置でオンリーワンの技術を持つ会社でしたが、10年勤めたところで倒産の危機に直面。優れたモノづくりの灯を絶やしたくない一心で、私が私財を投じて会社を買取り、新会社を立ち上げたのが、今のアトラステクノサービスです。

この業界で女社長は珍しく、「おたくが社長さん？」と、よく不信がられました。機械を作れない自分がメーカーの社長でいいんだ



平成27年ひょうご NO.1 ものづくり大賞
技術部門賞を受賞

ろうか、と^{じくじ}忸怩たる思いもありましたが、消費者の目線で意見を言い、販路拡大に徹してきました。

長年、オファーがなかった真空フライヤーは、ヘルシー志向と規格外農産物の活用という時流に乗って国内外で使われるように。会社は2017年に創業20周年を迎えることができました。今こそ、自分が本来、やりたかった食に携わる仕事を事業化したいと考え、新会社「神戸咲く咲く Harmony」を設立。会社のある神戸市西区の農産物を中心に、真空フライ加工で自ら六次産業化に取り組み、地元農業の活性化をめざしています。例えば押部谷名産の柿は、真空フライでチップスにすると、一年中、全国どこでもおいしく味わえます。イチゴも地元産にこだわって、味も香りも超一級です。

思えば始まりは武庫川学院です。短大の学びは実践的で、短大時代の教科書は今も通用する知識の宝庫です。これからも導いてくれた人々たちへの感謝の気持ちを忘れず、機械メーカーとしてよいモノづくりを続けるとともに、地域の農産物の魅力を発信していきます。



真空フライヤーで加工したチップスは色も鮮やか

ラジオ出演を終えて

1 周りの反響

ラジオに出たことで、みなさん「すごい!」と言ってくれます。会社のPRにも役立っています。

2 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

ラジオ放送がどういう感じか分かったので、今後、ラジオのオファーを受ける精神的余裕ができました。

3 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

20年後の日本は女性のパワーみなぎる国になっているでしょう。ただ、法整備や施策を含め、なかなか女子の力を活用できない今の日本の姿もあります。私は短大生の時、栄養士の資格を取るう、テストが嫌だから2年で卒業しよう、くらいにしか考えていませんでした。実社会がどういうものか、働くとは何かが分からないまま社会に出て、驚きと学びの日々でした。「起業」など、言葉も浮かばない学生でした。武庫川女子大学には、学生のうちに、良いことも悪いことも、夢も現実も、考えたり想像したりできる、社会体感型の学びができる大学であってほしい。女性が活躍する社会と、それを実現するメンバーを、作ってってください。



働くママを応援 社長も学ぶ社会人大学院



上野 公嗣さん

株式会社 S・S・M 代表取締役
院臨床教育学研究科臨床教育学専攻
修士課程2018年修了

大学で経営学を学び、卒業後は衛生用品の会社でマーケティングや営業に携わっていました。子ども向け用品の販売促進のイベントで、子育て経験のある女性販売員は、めっちゃくちゃ売りがいい。お母さんのスキルってすごい、働くお母さんを応援する会社があればいいな、と思って、自分で立ち上げたのが「S・S・M(現SSMotherホールディングス)」です。

女性活躍が期待される今もなお、子を持つ女性が働こうとすると、預ける場所がなかったり、心理的抵抗があったり、物的、心的な壁が立ちはだかります。S・S・Mは、こうした「女性が働くこと」と「子育て」の間にある壁を取り払うことが事業目的です。関西を中心に小規模認可保育所を30か所運営しているほか、人材紹介など保育所運営のサポート、最近は保育所と同じ場所にお母さんたちが働く場所を創出する事業もしています。子どもを預ける場所と自分のいる位置が近いほど、母親は安心して自由に活動できると思うんです。

ただ、肝心の「保育」や「子育て」につ



子どもたちと触れ合う上野社長

いて僕は知識がない。だから教育について学び、自分なりの教育観をしっかり持ちたいと思ったのが大学院に進むきっかけでした。武庫川女子大学を選んだのは夜間開講で働きながら通えるから。弊社の顧問である、大阪教育大学の小崎恭弘准教授がこちらの修了生で、勧めてくれたのが決め手になりました。

研究テーマは「地域型保育事業」。「子ども・子育て支援新制度」で、19人以下の小規模認可保育園が生まれましたが、そこを選択する保護者がどんな思いで子を通わせているか、実際に東京と大阪で聞き取り調査し、論文にまとめました。同級生には保育士や看護学校の先生、校長先生など現役で活躍中の様々な世代の人がいて、良い刺激をもらいました。僕は入学前、モンテッソーリや何々式という確立された教育を理想としてイメージしていたのですが、教育も福祉も、環境や人と密接に関わり合って変化するものと気づき、俯瞰的に教育を見ることができるようになったのが最大の成果です。院で得た知識を生かして教育や子育てに新しい価値観を見出し、よりよい未来を拓く活動ができればいいなと思っています。



S・S・Mはスーパーストロングマザーの意味

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

大学院を卒業してすぐの出演だったので、在学中の記憶も新しく、2年間の学生生活を楽しく回想しながらお話することができました。

2 周りの反響

大学院が共学だと知らない多くの方が、私が女子大卒業家という事を知ってびっくりしていました。

3 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

大学で得たこと、それを生かして何をしたいかを言葉にしたことで、自分の中でも整理することができました。2年間で得た貴重な経験と知識を生かして、仕事をしています。

4 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

人種や、性別、年齢の枠を超えて、もっと学べる環境ができていて、60歳の私も再び武庫川学院で学べていたらすてきなと思います。



全国に広がるS・S・Mの保育所



薬剤師の幸せが発展のカギ 全国で薬局を展開中



柳生 美江さん

株式会社プチファーマシスト
代表取締役 薬剤師
薬学部生物薬学科1980年卒

プチファーマシストは、調剤薬局の会社です。私自身、薬剤師であり、研究もしていましたが、結婚や出産でキャリアは断続的でした。子育てがひと段落した40歳代前半、「薬剤師が働ける場を作ろう」と一念発起。大学院で経済学や経営学を学び直し、2002年、43歳で起業しました。すでに大病院近くの院外薬局は飽和状態でしたから、クリニックを中心に、既存の薬局を引き継いだり、新たに作ったりして、現在120店舗を展開。従業員数は651人です。

武庫川の薬学部が今以上に難関だった時代に、武庫川中学・高等学校(現附属中高)から進学しました。薬学部を目指したのは、親が「手に職を付けなさい」と、薬剤師を勧めたから。高校時代は成績もよかったし、よく勉強しましたよ。実は大学時代から週末だけ化学教室のような塾を経営していました。ハワイで不動産事業も展開したので、根っからアントレプレナー(起業家)なのかもしれま



せん。

8年前、全国女性起業家大賞をいただきました。当時、売り上げ20億弱で、伸び率の高い企業として評価されたようです。その後さらに業績は伸び、2017年の売り上げは100億円を超えています。

利益を度外視して、沖縄からフェリーで2時間以上かかる離島にも薬局を作りました。その島では県から派遣された医師が診療をしているので、やっぱり薬局はないと不便でしょう。ただ、行ってくれる薬剤師さんを探すのが大変です。

会社では私、社長というより“お母ちゃん”です。うちは会議も役職も何もなく、社長、管理薬剤師、薬剤師がフラットな関係です。だから意見がすぐ、社長に届く。すぐ判断し、すぐ実行ですから、スピード感はありますよ。その分、コミュニケーションに時間がとれて風通しがいい。経営学では「人・モノ・金」が必要と学びましたが、「人・人・人」が大事だというのが実感です。もちろんお金も必要ですが、結局この業界は、他社より薬剤師を幸せにする会社が生き残ると思うんです。

目標は今、大阪中心に展開している系列薬局を東京にも増やすこと。私生活では孫娘2人にぜひ武庫川に入ってもらいたい。娘も武庫川なので、3世代武庫川乙女を目指します。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

声の調子が悪くて申し訳なかったです。

2 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

少子化が進んでも輝いている学院であってほしいです。





フィリピン・セブ島で 子どもたちにダンスを指導



左から
多田さん、末次さん、(塩田さん)、橋上さん

橋上 夕貴さん
末次 桃子さん
多田 咲美さん

健康・スポーツ科学部
健康・スポーツ科学科4年



大観衆の前で
子どもたちとダンスを披露

音楽を通して貧困地域に暮らす子どもたちを支援するNPO法人「セブンスピリット」の協力を得て、2月17日から10日間、フィリピンの子どもたちにダンスを教えるプログラムに参加しました。

私たちが教えたのは6歳から11歳の15人。一人ひとり子どもとペアになって活動しました。事前に「ハイスクールミュージカル」の中の曲と「銀河鉄道999」など曲に合わせて振り付けを考え、Tシャツに布やリボンを貼り付けて衣装を人数分手作りしました。子どもたちに衣装をプレゼントしたら、「かわいい!」ってすごく喜んでくれて。曲も耳なじみがあったようで、最初からノリノリでした。英語での意思疎通は難しかったけれど、右に動くときは「ライト」、飛び上がるときは「ジャンプ」など、分かりやすい単語で伝え、私たちがお手本を示して覚えてもらいました。

集中力が続かなくて、すぐ、わあって走って行ってしまいう子もいれば、人見知りで打ち解けるのに時間のかかる子もいましたが、日が経つにつれ距離が縮まり、離れがたくなりました。遊ぶときは思いっきり遊び、集

まってほしいときは、太鼓をたたいて注意を引き付け、音楽をかけて気分を盛り上げました。

最終目標はショッピングモールでの発表です。吹き抜けの大きな広場で、エスカレーターの上までお客さんがびっしり。オーケストラの演奏とともに、完成したダンスを2曲、披露しました。結果は大成功。いつもは支えないとジャンプできない子ども、自分からジャンプしてくれて。保護者の方たちが、うれしそうに動画を撮っていたのも印象的でした。

お別れのとき、サプライズで子どもたちが日本語で「友達はいいもんだ」の歌を歌ってくれたんです。手紙や手作りのプレゼントもうれしかったですね。

子どもたちとは、今でもSNSでやり取りが続いています。「アイラブユー」とか「アイミスユー」と、メッセージが送られてくると胸がきゅんとなります。

この活動を通して、言葉や文化が違っても、仲良くなりたいたい、関わりたいという熱い気持ちで接したら、ちゃんと伝わると、実感しました。自主練習などを通して、ゼミのメンバーと絆を深められたのもよかったです。いつも笑顔だった子どもたちにならい、私たちも楽しむことを忘れず、笑顔で頑張ります！



遊びを通して子どもたちと絆を深める学生たち
(フィリピンで)

ラジオ出演を終えて

橋上 夕貴さん

1 周りの反響

父：「話すの下手やな～」と言いつつ、「ムービー見るか!？」と画像付きの音声を見せてくれました。祖母：カセットテープで録音して、電話越しに「いい経験してきたね」。

2 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

先端に行く大学。古い形にとらわれず、新しいアイデアを生かし、またITの技術を用いて、みんなから「武庫女は違うな～」と思われるようになってほしいです。

末次桃子さん

1 周りの反響

母が気合を入れて生放送で聴く準備をしていました。

2 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

チャンスがあれば何事にも積極的に行動したいと思うようになりました。

3 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

女子大でしかない、楽しい大学生活を100周年の武庫女生にも感じてほしいです！

多田 咲美さん

1 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

いろんな方に海外ボランティアの事を知ってもらいたい気持ちが強くなり、まずは自分自身がボランティアに関して詳しく知ろうと、本や資料を読むようになりました。

2 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

もっと海外で何か挑戦できる環境があり、型にはまらず学びたいものが学べ、通っている学生も先生もキラキラと輝いている学校であってほしいです。



宝塚歌劇の 夢の舞台を支える仕事人



白水 陽佳さん

株式会社宝塚舞台 舞台スタッフ
短期大学部 健康・スポーツ学科
2005年卒

短大時代は、保健体育の教員二種免許取得を目指す一方、応援団の活動に力を入れました。応援団は武庫川女子大学の体育祭名物・応援合戦の仕切り役。年一回の舞台に向け通年で活動しており、厳しさは部活動並みです。短大の2年間は、勉強と応援団の活動でスケジュールがびっしりでしたね。

ところが、宝塚歌劇の舞台を見て進路がひっくり返りました。あまりのエネルギーに「なんて世界があるんだろう」って衝撃を受けたんです。ちょうど就職を考える時期。「なんとかこの舞台に関われないか」とネットで検索し、宝塚舞台のホームページにたどり着きました。大道具や小道具、衣裳から照明、音響まで宝塚歌劇の舞台裏すべてを担う会社なので、ここに入れば必ず舞台に関わることができる！熱意が通じ、採用が決まりました。

公演のオペレーションと着替えのサポー



ト、衣裳のメンテナンスや製作が主な仕事です。公演中は、宝塚歌劇のウリである「早替わり」のサポートが最も気を張ります。1分を切るような短時間で衣裳を取り換え、襟や裾のわずかなゆがみまで、瞬時に整えます。お客さまが夢の世界に浸るために、裏の忙しさを一切、感じさせてはならないのです。いつの間にか着替え終わっている！というくらいスムーズな着替えが理想ですが、まだまだ、日々勉強です。公演中も次の公演の準備を並行して行うので、いつも時間に追われていますが、私にはこれが性に合っているみたい。

一人ひとりが役割を確実にこなし、互いに支え合えなければ最高の舞台は成り立ちません。大事なものはチームワークです。学生時代、応援団で身に付けた「みんなで一つのことを成し遂げる力」が、今、生きています。

勤続10年を超え、後輩も増えてきました。武庫川の後輩も何人か入ってきて、うれしいですね。年数を重ねた分、経験値は上がってきたので、今まで先輩から教えてもらったことを、今度は私が伝える番です。後輩を支えるとともに、手本となる背中を見せ、一緒にお客さまが感動する夢の世界、最高の舞台を作っていきます。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

初めてのラジオ出演で緊張もありましたが、皆さんの温かい空気感で本番は緊張もほぐれ、楽しく話すことができました。

2 周りの反響

「聞いたよー!」と、友人から連絡が来ました。

話が分かりやすく聞き取りやすかったという言葉をもらいました。

3 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

ラジオで発言したことは日々思っていたことではありますが、皆さんに聞いていただいたので改めて頑張っていこうと思いました。

4 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

今よりもなお女性の社会での活躍が目覚ましくなっていると思うので、そんな社会をけん引していく人を、たくさん武庫川学院から輩出していただきたいです。





幸せを招く白い泡 ぶくぶく茶の魅力伝えて



笠島 香織さん

琉球茶道「ぶくぶく茶館」代表
短期大学国文科1986年卒

私、ひよんなことから人生の転機を迎えることが多いんです。会社勤めのころ出張先で盗難に遭い、失ったアクセサリーや洋服を補充しようとたまたま入ったりサイクルブティックで、オーナーと意気投合。「店をやめるつもり」と聞いて思わず「引き継ぎたい」と、申し出ました。2店舗まで増やしたところで、ひよんなことから沖縄の宜野湾市に移住することに。そこで偶然、「ぶくぶく茶」の看板に目を留めたことが、琉球茶道ぶくぶく茶・家元の田中千恵子先生との出会いにつながりました。

早速、田中先生に弟子入りして5年間、修業を積みました。弟子が取れる「教授」に認定され、2011年、大阪で「琉球茶道 ぶくぶく茶館」という教室を開設。現在、弟子は25人ほどいます。ぶくぶく茶を知ってもらおうと、沖縄の着物を着てぶくぶく茶をたてる体験教室も行っています。

ぶくぶく茶は、木を丸ごとくりぬいた大鉢と30cmほどもある長い茶せんでたてます。お茶と泡の二層になっていて、下の層は玄米を香ばしく炒って何時間も煮出したものにお茶



を加えたもの。上の層の泡はぶくぶく液という液で作ります。白米を焦がして硬水で何時間も煮出した液で、たてると真っ白な泡が出てきます。不思議でしょう?一度見ると、やってみてほしい!と思うはず。沖縄ではおめでたいときにいただくことが多く、「福福茶」と書くこともあります。縁起物ですね。琉球王朝時代の1719年くらいから書物にぶくぶく茶らしいお茶の記述が見られます。

お茶にはちんすこうなどを添えます。沖縄では懐紙を鶴の形に折ることが多いですね。小さな島の国ですから、船で往復した時代は海難事故も多く、鳥のように飛んでいって無事帰ってきてね、という思いを込めたといわれています。お菓子を少し召し上がってからぶくぶく茶を飲むとおいしいですよ。

2018年2月、母校で「ぶくぶく茶」の特別授業を行いました。卒業以来、途切れていた母校との縁が再開したのもひよんなことからです。6月19日まで阪急うめだ本店で開催される「おいしいかわいい沖縄展」で、ぶくぶく茶のデモンストレーションステージをします。沖縄の歴史や文化と併せて知ってもらい、泡といっしょに体にいっぱい幸せを入れていただきたいと思います。



真っ白な泡が福を呼ぶ「ぶくぶく茶」

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

塩田さんはじめ、関係者のみなさまが見事なチームプレイで話せる環境を作ってくださいることに感激。出演を迷う方がいらしたら心配無用と伝えたいです。

2 周りの反響

褒められることの少ない人生ですが、やけに褒めてもらいました。MUKOJO ラジオのおかげで鼻高々です(笑)。

3 2で印象的な言葉、リアクション

生徒たちが私のいる前で radiko.jp のタイムフリー機能を使ってみんなで聴きはじめ…とても恥ずかしかったです。

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

大昔ですが、在阪ラジオ局で高校生DJをしていたことがあります。夢中になり成績が下がり、親との約束でリタイアしたのですが、ふたをしてわざと風化させた“もう少しラジオで話したかった気持ち”を十年の時を越えてMUKOJO ラジオで昇華させていただきました。私は幸せ者です。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

学部にとらわれない新しい自由な学びとともに、実学の武庫女がさらに進み、各界スペシャリストを輩出する教育機関として世界に名をとどろかせてほしい。いつか女性総理も輩出してほしいな。



患者さんの笑顔が見たいから 子どもの在宅医療を研究



前田 由紀さん

看護師

院看護学研究科 看護学専攻
博士後期課程2年

和歌山県の基幹病院で約20年間、看護師として勤務していました。今も通学の傍ら、訪問看護や小児科クリニックで働いています。看護師になったのは、人の笑顔が好きだから。病気の人が少しでも楽になるよう、お手伝いしたかったんです。

研究のテーマは子どもの在宅医療。子どもたちが、自宅でスムーズに日常を送るためのサポートプログラムの開発を目指しています。

研究の道に進むきっかけは、小児病棟の看護師だったころの苦い経験です。1型糖尿病で入院してきた中学2年の女の子を担当し、2週間お世話しました。入院中、血糖値のセルフチェックやインスリン注射の方法などを指導し、彼女は手際よく覚えてくれたんです。退院のときも笑顔でした。だから、3年後、彼女が退院直後から家庭内で荒れている、と知り、がくぜんとしました。

私は彼女の入院中、何をしていたんだろう。あれだけの病気を持って自宅に帰る子どもの葛藤に、なぜ寄り添ってあげられなかったんだろう。経験知を研究で補完する必要を強く感じ、大阪大学の修士課程に進学。在宅医療の子どもたちの現状調査に取り組みま



訪問看護に出発する
前田さん

した。当時の指導教官である藤原千恵子先生が、武庫川女子大学の教授になられたのを追って、博士後期課程は武庫川へ。社会人に対応して、夜間と週末の開講であること、どの分野も良い先生がそろっていて、ハイレベルな授業が受けられるのが魅力でした。

とりわけ国際看護学の授業に刺激を受けました。国際的に活躍する看護師の人材育成はこれからの課題なので、先見性がありますね。希望すれば英語学習の様々なサポートを受ける環境が整っているのも、お勧めポイントです。

家庭では18歳と15歳の二人の息子の母です。今、上の子は浪人生なんですけど、先日、「お母さんの勉強量にはかなわへん。そんなに努力してる人はいないと思うわ」と言ってきて。「え、あんたそんなこと思ってたん？」と、ちょっとうれしかったですね。洗濯や食器洗いも「やって」と言うと「しゃあないな」という感じでやってくれます。夫も応援してくるのでありがたいですね。

研究者としてはまだ門をコンコンと叩いたにすぎません。博士号を取得して、病気の子どもたちが自宅で笑顔で過ごせるよう、研究を進めたいと思います。



ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

めっちゃ気持ちよかった——!!
自分の言いたいこと話すって、こんなに気持ちいいんやと思った。いい経験をさせていただきました。

2 周りの反響

「すごい良かった!」「前田さんの研究への思いがよく伝わった」「聞いていて涙が出てきた」。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「涙が出てきた」ということでしょうか。それほど感動してくれたんやと思いました。

4 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

自分から発信する勇気が湧いてきました。自分の気持ちを正直に相手に伝えたらいいんだと思った。自分がなぜ看護師になりたかったのか、原点に戻ることができた。研究や教員の仕事、苦しくなったときでも、糖尿病の女の子のことを思い出したら、頑張れる。病気を持った子どもたちが元気に毎日を過ごすことができるように、支援をし続けたいです。

5 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

やはり女性の社会での活躍でしょうか。女子大学なので当然です。一人でも多くの武庫女卒業生が、社会で活躍していますように!!



大人気!「神戸・清盛隊」の産みの親 80周年記念式典でも活躍



神戸・清盛隊に囲まれる若見さん

若見 しのぶさん

関西を中心に
イベントなどをプロデュース
文学部教育学科
初等教育専攻 1983年卒



大学4年まで、小学校の先生志望でした。親の希望でもあり、周りから「先生に向いている」と言われて育ったので、その未来を疑いもしなかったんです。

ところが、小学校に教育実習に行ったところで頭を打ちました。この子たちの将来に影響を与える大変な責務を、自分は負えるのだろうか、と悩んでしまって。急ぎよ、進路変更です。アルバイト先がレコード店だったこともあり、レコード会社を受験するも全滅。友人が「新聞でイベント運営会社が社員募集しているよ」と教えてくれて、受けてみて合格したのが、イベント企画の道に進む第一歩でした。

大物ミュージシャンのコンサートも手掛ける会社でしたが、1年で倒産。フリーを経て、関西大手のイベント制作会社「マッシュ」に再就職したのが30歳のころです。ここでは、企業の商品キャンペーンから博覧会まで、大小様々なイベントをプロデュースしました。その一つが、2012年放送のNHK大河ドラマ「平清盛」に合わせて企画した「神戸・清盛隊」です。清盛を中心に、彼の息子や甥など

平安時代からよみがえった平家の武将が、観光客をおもてなしするという設定で、謎の人物「GION」を含めた7人のチームが、歌って踊って殺陣を繰り広げます。

1年限定の実施企画でしたが、あまりの人氣に解散からわずか4か月で再結成。私としては、会社の通常業務に戻るか、「清盛隊」のプロデュースを続けるかの二者択一を迫られる事態となりました。普通は会社を選ぶところですが、私は退社して清盛隊と共にゆく道を選びました。生みの親ですから、ほっとけないじゃないですか。うれしいことに根強い人氣で2018年に結成7周年を迎えます。9月9日に神戸市兵庫区で「平清盛900歳祭」を開催するので、今はまず、このイベントを成功させたいですね。

うれしいことがもう一つ。2019年の武庫川学院創立80周年記念式典のプロデュースを任せられました。本当に私でいいのかな、と不安もありますが、大好きな公江喜市郎先生が作られた公江記念講堂で、学院の大イベントに関われるなんて、本当にうれしい!いろいろなことがつながって、巡り逢い運がものすごくいいな、と、感謝しています。



ラジオ出演を終えて

① 周りの反響

中高・大学の同級生が大変喜んで、LINEでの連絡がしばらく続きました。私の人生の中で武庫女で出会えた友人は今でも絆が深く、宝物です。

② ①で印象的な言葉、リアクション

私が武庫女出身とラジオで知った仕事関係の方から、「実は私も武庫女です」とお声を掛けられ、プチ同窓会を開催することになりました。

③ 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

中学から大学まで10年間過ごした武庫女。社会を知らない頃からの多感な時代を過ごした武庫女。支えは先生方、友人であったと思います。感謝しています。周りに武庫女出身の方が多くことに気づき、これも縁として、楽しく過ごしています。

④ 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

80年はすごく長い道のりです。少子化などで学校経営が難しい時代の中、武庫女がここまで成長を遂げていることをうれしく思います。女子教育への公江先生の思いを基本に、どんどん発展し、100周年を迎えていただければと思います。そして学生が、素晴らしい先生方と充実した施設のもと、生き生きと成長してくれればと思います。



個性が詰まった「ふでばこ」めざす 外国にルーツを持つ子どもたちをサポート



(左から)
中西さん、時実さん、小川さん



中西 美咲さん
小川 瑚登さん
時実 麻優さん

.....
文学部英語文化学科4年
.....



「ふでばこ」の活動が
日本財団学生ボランティアセンターの
助成対象に

外国にルーツを持つ子どもたちに、ティーチングスタッフとして国語や算数などの教科指導をしています。この活動は西宮市国際交流協会と関西学院大学教育学部、武庫川女子大学のコラボレーションによるもので、関学は主に西宮市大学交流センター、私たちは西宮市立高須公民館で活動しています。鉛筆や定規、消しゴムなどが入っている「ふでばこ」みたいに見た目は違っても全員必要な子どもたちだよって気持ちが活動の趣旨です。

対象は西宮市内の小中学生。ペルーやブラジル、中国などいろいろな国の児童、生徒が集まります。主に学校の宿題のサポートをしています。宿題が終わった子には、ドリルなどでプラスαの勉強を促します。事前に学校の進捗と照らしてどのように教えるか準備し、「円錐」など伝わりにくい言葉は図や立体を示して説明します。

勉強の後は遊びの時間です。いろんな野菜の絵と名前を合わせるビンゴゲームなどを用意して、楽しみながら日本語を覚えられるよう工夫します。子どもたちが「遊ぼう!」と駆

け寄ってくるときや、みんなが笑って場が一つになるときは本当に楽しい! 消極的だった子が積極的に変わるなど、成長が見えると「やってよかった」と思います。

2017年にスタートし、スタッフの増員や会場の選定など、運営は試行錯誤で進めてきました。活動を知ってもらうため直接小学校を訪ねて説明したり、ピラ配りをしたり。クリスマスなどのイベントでは、ささやかなプレゼントを手作りしました。現在は隔週の開催ですが、小学校側から毎週開いてほしい、という声があります。ただ、私たち運営メンバーは現在、就活真っ最中。「将来は青年海外協力隊などで途上国の子どもたちが笑顔になれる環境を作りたい」(時実)、「海外でいろいろな人と交流するのが最終目標。いつか青年海外協力隊に参加したい」(小川)、「日本や世界の人の暮らしを豊かにするため、貿易や物流業界に就職したい」(中西)と、3人とも夢はグローバルです。就活が落ち着いたら子どもたちと毎週過ごせるよう、活動を拡充したいと思っています。



高須公民館で
子どもたちに勉強を教える学生たち

ラジオ出演を終えて

時実 麻優さん

1 周りの反響

ラジオを聴いた友人がLINEメッセージを送ってくれました。「頑張れ」と応援の言葉をくれたのが印象的でした。

2 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

活動の認知度が上がり、「ふでばこ」で通じる人が増えました。

3 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

海外インターンシップなど、学生のうちにできる様々なチャンスが増えればいいと思います。

小川 瑚登さん

1 周りの反響

ラジオを聴いた友人、親戚から「活動についてもっと聞きたい」と言われました。

2 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

活動するうえで、もっと新しいことにチャレンジしたいと考えるようになりました。

3 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

女性が中心になって生き生きと社会で働けるような教育を考える大学であってほしい。

中西 美咲さん

1 周りの反響で

印象的な言葉、リアクション

ゼミで先生がラジオ出演のことを話してくださり、みんなの「おお～」という驚いた様子が印象的でした。

2 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

ラジオ出演の前は、広報活動をどのようにするか悩んでいました。ラジオ出演後は資金調達のためのファンドに応募するなど、新たなことに挑戦するようになりました。



甲子園会館で生きた建築を学んで



馬場 あさひさん

一級建築士、清水建設株式会社勤務
院生活環境学研究科建築学専攻
修士課程2014年修了

両親とも一級建築士で、自宅が設計事務所という環境で育ちました。私自身、モノづくりが好きだったので、建築士を目指したのはごく自然な流れでした。

高校3年生のとき、たまたま武庫川女子大学の甲子園会館を見学した両親から「武庫女の建築学科は甲子園会館が校舎になっていて、設備も素晴らしい。建築を学ぶならこの大学がいいよ」と勧められ、進学を決めました。旧甲子園ホテルの名建築に学生用のスタジオがあるなんて、最高の学び舎です。「ここで学べてよかった!」と日に日に実感しました。「美」に特化した特色ある授業、土曜日ごとに各地の建物を探訪するフィールドワークも、楽しかったですね。

修士1年のとき、阪神電車鳴尾駅の高架化に伴う駅舎新築のプロジェクトに参加。まだ青写真の段階でしたが、駅舎の形や柱のデザインをあれこれ考えて提案しました。このプロジェクトは後輩たちに引き継がれ、2017年に完成しています。大きなプロジェクトの一端を担えて、良い経験になりました。

武庫川女子大学の建築学科は学部4年、修



社内で打ち合わせをする馬場さん

士2年の6年一貫教育で、修士課程修了と同時に一級建築士の受験資格が得られます。私は清水建設に入社後、2年目に挑戦し、合格しました。

清水建設での担当は意匠設計。デザインはもちろん、プロジェクトを総括する立場です。今は主に生産施設や工場を作っています。コストや機能面でクライアントの要望に応えるのは当然ですが、武庫女で身に付けた街並みや建物の美しさへの配慮、環境との調和は常に心掛けています。2017年に1年がかりで手掛けたのが大阪市内にある自動車のショールームです。ハザードにルーバーを角度をつけて配置することで、形や色が変化して見えるよう工夫しました。私が初めて一人で担当した仕事だったので、出来上がったときは手放すのが惜しかったですね。

最近、各地で地震が多発し、倒壊したブロック塀の下敷きになるなど、不幸な事故を耳にします。人の命を守るべき建物が凶器になってはいけない。災害から人を守る建物を作るのが私たちの使命だと、改めて胸に刻んでいます。

夢はその土地のランドスケープになるような建物を作ること。街の中で、様々な人が使う建物に携われたいいな、と思っています。



ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

初めての経験でとても緊張しましたが、自分の選んだ仕事に対して振り返る良いきっかけになりました。

2 周りの反響

あらかじめ放送時期を教えていた家族からは感想を聞きました。社内にたまたま聴いた人がおり、ラジオ媒体のすごさを改めて感じました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

緊張しすぎて話し方が不自然だと言われました（笑）

4 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

武庫川女子大を選んだきっかけや学生時代の気持ちを思い出し、初心に返ることができました。

5 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

関西にとどまらず、全国的にさらに有名になってほしいです。





ダンスの甲子園「オールジャパン」を前に



山下さんが振付した「約5秒の潜熱」



(左から) 久保田さん、山下さん

山下 爽香さん

健康・スポーツ科学部
健康・スポーツ科学科4年

久保田 恵利さん

健康・スポーツ科学科2年



久保田：ダンス部は1956年の短大ダンス部に始まり、約60年の歴史があります。現在、部員24人。バレエの要素の入ったコンテンポラリーダンスを中心に活動していますが、イベント等ではヒップホップなど様々なジャンルに取り組みます。

山下：大学の強化クラブに指定され、全国の強豪校出身の子たちが入ってくるようになりました。

久保田：山下さんもダンスではトップ校の神戸野田高校出身です。

山下：3歳からクラシックバレエを始めてモダンダンス、ジャズダンスなどダンス一筋です。ダンスは柔軟性が必要、とよく言われますが、それよりもイメージする力が大事です。視線を遠くに、とか腕の中に水が通っている感覚とか。難しいけれどイメージするかしなないかで踊り方が変わってきます。

久保田：私は高校までバスケットボールで、ダンスは高校の授業でやったくらい。高校3年のとき「ダンスの甲子園」といわれるオールジャパン（全日本高校・大学ダンスフェスティバル神戸）を見て感動したのが

きっかけで、大学入学と同時にダンス部に入部しました。そのオールジャパンに8月7日から10日にかけて出場します。

山下：昨年は予選敗退だったので、今年は絶対受賞するという熱い気持ちで臨みます。作品は基本的に私が考えます。まず、タイトルと作品のコンセプトを決め、衣装、構成、振付を考えます。私がイメージしたことを全員で共有する必要がありますが、今、そこに苦戦しています。

久保田：1年間、この大会めざして努力してきましたからね。月曜を除き、毎日3時間以上練習します。筋トレを含む基礎練習は必ず1時間こなします。

山下：オールジャパンの後は、選抜メンバーが「アーティストックムーブメントイン富山」に出場します。さらに12月には、50回目の定期公演を芦屋ルナホールで行います。卒業生も交え、自作の11~12作品をお見せします。ダンス部の集大成なので、ぜひお越しください。

久保田：まずはオールジャパンの受賞を目指して頑張ります。

山下：国内外問わずいろんなコンクールにチャレンジして、もっとパフォーマンスを高めたいですね。



「約5秒の潜熱」

ラジオ出演を終えて

久保田 恵利さん

1 出演した感想

ラジオ出演という経験が初めてだったので、どんな感じなのだろうというワクワク感と、ダンス部を代表しているプレッシャーがあり、とても緊張しました。貴重な経験でした。

2 周りの反響

家族はオンエアを聴いていたみたいで「緊張していたね」と言われました。近所のおじさんにも「ラジオ聴いたよ」と言われたりして、とてもうれしかったです。

3 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

出演した事で、ラジオに少し敏感になりました。今までは、あまりラジオを聴いたことがなかったのですが、少し関わったことで「あ、ラジオやってる」と思うようになりました。ラジオに出演したとき、本当に緊張していたので、舞台本番で緊張するときもラジオのときよりは緊張していないと感じるようになり、少し気持ちに余裕ができました。

4 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

現在、武庫川女子大学は女子大のマンモス校なので、これからも活気あふれる学校であってほしいと思います。ほかの学校からも武庫川女子大学っていいな、すごいなと思ってもらえるような、そのような学校でい続けてほしいと思いました。



いつまでも輝いて美しく

ミセス日本グランプリ (60代の部) 優勝



ミセス日本グランプリの授賞式で
(前列左から2番目が本庄さん)



本庄 典子さん

株式会社ライフクリエイター

代表取締役

文学部教育学科

体育専攻1976年卒



ヨガのスタジオを主宰する傍ら、美しくなるウォーキングの指導や関西学院大学高等部の非常勤講師をしています。

日頃は化粧っけのない私ですが、2017年3月、ヨガ指導35周年のパーティーで、きれいにメイクしてもらってドレス姿で登場したら、生徒さんたちが「美魔女だ」とか「コンテストに出たら」とか褒めそやしてくれました。ちょうど友人が第8回のミセス日本グランプリを受賞したことを思い出し、「そういうのにチャレンジするのもいいかな」と。ミセスが対象のコンテストで30代から60代まで各年代でグランプリが選出されるので、60代の部に応募しました。

本選に出るためにメイクやウォーキングを習いました。ターンなんて最初は「行進みたい」と、爆笑ものでしたよ。体育教師の名残りがしら。今までの生き方が全部、立ち居振る舞いに出るんですね。60代にして一気に自分を美しくするセルフケアに目覚め、第10回ミセス日本グランプリ60歳代

グランプリを受賞しました。

大学時代は体育専攻。能婦寮という学寮に入ってバスケットに打ち込み、主将も務めました。当時、体育専攻は1学年45人。バレー、スケート、体操、ソフトボールと、様々な競技者が集まって4年間過ごせてすごく楽しかった！

卒業後は6年間、大阪や宝塚で中高の体育教師をしていましたが、夫のいる東京に転居したのを機にヨガを始めました。体育の基礎があったせいでしょ、早い段階で教える側になりました。現在、芦屋本部と西宮で教室を開き、東京のスタジオでも月1回指導しています。生徒は0歳から上は97歳までいるんですよ。

いまや人生100年超えが当たり前。50歳以上が健康でキラキラ輝いてこそ、世の中が華やぎます。エクササイズよりも、くよくよせず前に進む気持ちが大切。そんなエールを込めて、明るく元気な女性たちの会「ソレイユ」を立ち上げました。8月末に、障がい者の方をサポートする「バリアフリーのランウェイ」パーティーを開催します。これからもエネルギーに、新しいことに挑戦していきたいですね。



ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

FM OH!での放送であることにびっくり。母校の大きさを感じました。ラジオは、2回目でしたので緊張はなかったです。

2 周りの反響で

印象的な言葉、リアクション

DJの方から「常に何かに出会ったらチャレンジし、次の扉を開けるようにしてこられたのですね」と、言われて、自分自身のそうした生き方に気が付きました。

3 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

これからの生きて行く道、ビジョンや目標がしっかり持てるようになり、自分の軸が大きくなりました。

4 20年後、100周年を迎える

武庫川学院に期待することは

人生100歳、120歳時代になってきております。女性が世の中を引っ張っていく時代です。武庫川女子大学にはもっともっと大きくなって関西、日本を引っ張ってほしいと思います。私も100周年のときは84歳。まだまだ現役で美と健康のお手伝いとセルフケアを提唱したいと思っています。



本を通してお客さまとつながる喜び



市岡 陽子 さん

キクヤ図書販売株式会社
喜久屋書店阿倍野店副店長
文学部国文学科1997年卒
院文学研究科国語国文学専攻修士課程1999年修了

学生時代、国文学の勉強が楽しくて「もっと学びたい!」と、修士課程に進みました。ところが、いざ就職という現実が迫ると、はっきりした目標が持てなくて。さまざまに入った書店で、「ああ、本屋さんで働くのもいいな」と思い立ち、今の仕事に巡り合いました。

書店員といえば、書棚に本を並べたりレジに立ったり、という姿が浮かぶでしょう。書店員が大きな情熱を傾けるのが仕入れです。私は文芸書や人文書、看護の専門書などを担当しており、これらのジャンルの本の仕入れはほぼ、担当である私の裁量で決まります。売れる本、売りたい本、うちのお客さまの層に合っている本は多めの数を仕入れます。入れた以上は売れるようにポップを書き、置き場所を工夫します。専門書は1冊入れるか入れないか。見極めが難しいけれど、「ここ」と思って棚にさした本が売れると、棚を通じて読者とつながった感じがします。

逆にお客さまが探されている本がなかったときは、申し訳ない気持ちになります。人気書は会社の総力を挙げて必要十分な数を確



保します。本との出会いを作れるか作れないか、は書店員にかかっており、私たちはその出会いに責任があると自負しています。

本のPR誌におすすめの本の紹介を書いたのがきっかけで書評やコラムを依頼され、文章を書く機会が増えてきました。神戸新聞で連載中の「本屋の日記」は、4人の書店員で分担しながら8年、続いています。読者に楽しい話題を提供すると同時に、本屋って面白いな、本屋で働きたいな、と興味を持ってくれる同志を募る気持ちで書いてるんですよ。

私、小さなことに幸せを感じるタイプなんです。本の間に挟まっているスリップはレジで保管し、何が売れたかの証拠になります。あのスリップを見て「やった!売れた!」とガッツポーズしたり、お客さまに「ありがとう」と言われて元気になったり。でも最近は書店も効率化、省力化が進み、スリップをなくそうという動きもあって、アナログ人間の私としては残念です。書店業界は厳しい状況にありますが、本来「売れる」「売れない」だけでくれない、特別な業種だと思うんです。これからもアナログの力と書店員の力を信じて、仕事を続けていきます。



ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

自分の言葉で、まじめに仕事を語る貴重な機会でした。

2 周りの反響

友人、先輩方、恩師、就職してから知り合った方も、放送時間に合わせてラジオを聴いてくれて、放送後、感想を続々ともらいました。自分の声が嫌いでしたが、「いい声〜」「聴きやすかったよ」と何人かに言ってもらえて、少し自分の弱点が克服できました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

仕事関係の知人から「市岡さんが言葉を大切にしているルーツがよく分かった」と、自分でも自覚していなかったことを言ってもらいました。私は周りの人に本当に恵まれているなあと思いました。先輩からは、「貫禄さえ感じる!」と言っていたが、そういう年回りであることも、自覚せざるをえない思いです(笑)。

4 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

母校で学んだことや、母校で出会った友だちの影響や応援を受けて、今の私が形成されているんだなど、思い直すきっかけになりました。

5 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

いろんな意味で開かれた学院であってほしいと思います。



数式入力インターフェース 「MathTOUCH」開発



福井 哲夫先生

生活環境学部情報メディア学科教授

数式入力インターフェース「MathTOUCH」—これが私が発明したソフトです。みなさんがパソコンを使うとき、人と機械の接点になるキーボードやマウス、ウィンドウを閉じたり開いたりするための表示はすべてインターフェースの一種です。ただ、これまでのインターフェースは数式となじみが薄く、数式に関する機能が発達してこなかった。2分の1は縦に2段にしたいのに、横に並んでしまう。 x の二乗は右肩に小さく2を入れたいのに、同じ大きさになってしまう。デジタル化しにくかったのです。

あえて数式を入力するには、+や二乗などのパーツをプラモデルのように組み立てるか、特殊な言語で変換するか、いずれかでした。これは一般の人、ましてや小中学生には使いにくい。2020年にデジタル教科書が全面導入されるといときに、これでは数学だけ取り残されます。

そこで MathTOUCH です。このソフトなら、数式を読むように「えっくすのじじょう」、「にぶんのいち」、と前から順に打っていくと、候補がいくつか出てきます。AI を使って一番可能性の高い候補から予測してくれるのです。Enter キーを押すと、目指す数式が確定します。



従来は機械に人間が合わせていましたが、MathTOUCH は人のあいまいさに合わせてくれる。人に優しいんです。2015年に特許を取得し、国際会議などで発表したところ、非常に興味を持たれました。

実用ソフトと組み合わせて、タブレット端末上で数学のドリルワークができる仕組みも開発しました。数学は考える過程が重要なので、デジタルで数式が打ち込めるのは重要です。数式から簡単にグラフを出すことができる仕組みもゼミの学生と一緒に作りました。 $y = \sin x$ と入れると、ちゃんとグラフが現れる。「MathTOUCH を実装したグラフ作成ツール」は、2018年8月、京都大学で行われる研究集会「数学ソフトウェアとその効果的教育利用に関する研究」で学生が発表します。

私のゼミは、プログラマーやシステムエンジニアになりたい学生が集まっているので、時間割管理アプリやゲーム、ロボットのプログラミングなど、一人ひとりがあるあるなチャレンジをしています。画面上のキャンパスを自由に動き回れるロールプレイングゲームを作った学生もいます。発想が豊かで、楽しいですよ。MathTOUCH はここまで便利になったので、早く学校現場で使ってもらえるよう、一般公開の準備を進めています。期待してください。



ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

司会者のリードがよかったので、思った以上に、収録がスムーズに行えて驚きました。しゃべった内容も大変満足しています。

2 周りの反響

家族は「分かりやすかった」と、身内としてほめてくれました。

聴いてくれた友人は、これからの学校教育現場で重要なことだと知って「素晴らしい」と言ってくれました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

数学ソフトウェアを扱う会社の社員で、共同研究グループの一人が、特許を取得していたことをラジオで知って驚いたとコメントをくれました。MathTOUCH のことを社内で宣伝してくださったそうです。

4 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

時々、大学の同僚の先生方と道であいさつするときに、「ラジオを聴いた」と言ってくれて、話さかけができました。

5 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

様々な新しい教育・研究の取り組みを支援し、少々の失敗や無駄を恐れず、未来に大きな芽が出ることを期待して進んでほしいです。



個性ある歌声を一つに 音楽学部卒業生のコーラス「Lavie」



月に2回、
音楽館で行われる練習風景

松尾 芳子さん

音楽学部声楽学科1983年卒
音楽専攻生声楽専攻1984年修了

中尾 奈津子さん

音楽学部声楽学科1990年卒

「Lavie」メンバー



(左から) 中尾さん、松尾さん

松尾: 「Lavie」は、音楽学部卒業生の有志でつくるコーラスグループです。メンバーは30代から70代まで17人。プロのソリストとして活動している人もいれば、後進の指導をしている人、音楽を離れて子育て中のママもいます。私自身は武庫川女子大学附属中高で音楽の非常勤講師をしながら、関西二期会に所属してソロ活動もしています。

中尾: 私は塩田さんと「しおちゃん」「なっちゃん」と呼び合う仲です。同じプロダクションに所属して、私もアナウンサーとして働いていた時期があるんですよ。塩ちゃんが入ってきたとき、まだ学生だったね。私は今は、アナウンサーの仕事はフリーで時々受ける程度。最近は認知症予防の音楽ケア体操を教えています。約15年続けている女声合唱団の活動以外、本格的な音楽から遠ざかっていたので、Lavieでプロの方々と一緒に歌えるのはすごくうれしい。

松尾: 音楽学部の卒業生が学年を超えて音楽活動をする機会はこれまでなかったのでは。2015年、音楽学部の同窓会「楽朋会」の有志が、多田秀子准教授の呼び掛けに応

え、楽朋会総会でコーラスを披露したんです。一回きりのはずが、集まったメンバーがコーラスの魅力にはまってしまって継続を希望。結成したのが「Lavie」です。フランス語で「生命」とか「人生」と言う意味ですが、武庫川女子大学のキャラクター「ラビー」にちなんだ名前と思う人が多いですね。

中尾：人生にコーラスがあるのはすてきなあって。練習は月2回、音楽学部の教室で。母校に帰れて先輩後輩に会えて、学生気分を味わっています。
松尾：ソリストたちは、みんな個性が強く、声も自己主張するので、まとめる多田先生は大変だと思います。

中尾：鳴尾公民館などで外部公演もしています。2019年1月には、浜脇公民館で歌う予定です。合唱曲はもちろん、唱歌や歌謡曲ヒットメドレー、「ねこふんじゃった」など動物が出てくる童謡メドレー等、幅広いジャンルに取り組んでいます。

松尾：武庫女の音楽学部は歴史も実力もあるのに、小所帯なのであまり目立たないんです。Lavieの活動は武庫女の宣伝にもつながるはず。目標は Lavieとして単独公演をすること。そのために、レパートリーを増やしていきたいですね。

中尾：オリンピックイヤーの2020年くらいに実現したいです。そのときは私、司会も頑張ります！



鳴尾公民館でのクリスマスコンサート

ラジオ出演を終えて

松尾 芳子さん

1 周りの反響

「Lavie」ってそういう意味だったのね」とか「Lavieのことがよく分かったわ」とか。

2 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

よりいっそう、「Lavie」のことを知ってもらいたい、歌を聴いてもらいたいという気持ちが強くなりました。

3 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

私が卒業して早や30年が経ち、学部、学科も増え、母校はかなり変わりました。さらに発展し、自慢の女子大学であり続けてほしいです。

中尾 奈津子さん

1 出演した感想

あっという間の収録時間！しゃべり足りない事も多々ありましたが、楽しいひとときでした。

2 周りの反響

Lavie メンバーから「笑いの絶えない放送で、グループの活動内容がよく伝わったよ！」と言ってもらいました。「滑舌良すぎてハキハキとした、よく通る声やったわ〜」という声も。

3 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

「音楽学部卒業生」として誇りを持って、どんな世代にも愛される演奏を続けていきたい。アナウンサーの仕事を再開してみようかな？と思いました。



ダイヤのように輝きたい 男役エンターテイナー神勢大也



渡邊 翠さん

振付師、ダンサー、
ダンスインストラクター
文学部英語文化学科2016年卒

男役エンターテイナー神勢大也(かせ・だいや)として歌劇やストリート、ジャズ、コンテンポラリーなど様々なジャンルに挑戦しています。男役って不思議なんです。男性がやるとかっこつけすぎて気持ち悪い動きも、女性が演じると色っぽくてどきっとする。そんな感覚がすごく面白い。街を歩いているのも、男性の動きを観察して真似てみるんですよ。

福島県出身で高校2年のとき東日本大震災に遭い、家族で関西に避難しました。武庫川女子大学を知ったのは、関西に残って進学すると決めてから。中学のころから「英語を学びたい」「英語の先生になりたい」という一心で勉強を続けてきたので、留学制度がしっかりしていて教員免許もとれる武庫女は理想の大学でした。

英語の特別クラス ACEに入り、英語スピーチコンテストで優勝したり、文化祭で被災地支援のための東北物産展を企画したり、充実した日々。ところが、宝塚歌劇の舞台を見て、もう、体に電流が走るように「男役、やりたい!」と。予定していた留学を断念してすぐダンススタジオに通い始め、それ



からはダンス一筋です。在学中から、碧海^{あおみ}りおさんに師事。4年の文化祭では公江記念講堂でダンスパフォーマンスを披露しました。

卒業後、碧海先生の師匠・はやみ甲さんの歌劇ユニットに選抜メンバーとして加わり、2017年8月に初舞台を踏みました。「歌劇」と聞くと優雅なイメージがありますが、このユニットは超攻撃型。マイケル・ジャクソンの曲で踊ったり、ストリートダンスを入れたり、パチパチのダンスと歌と芝居で心をつかむのが特徴です。夢の舞台に立てて感無量でした。

進化し続けるためにレッスンは欠かしません。もっとうまく踊りたい!と、気持ちはいつも前のめりです。2018年10月には、大阪のサンケイホールブリーゼで、はやみ甲ダンスカンパニーの男役ダンサーとして「ジャンヌダルク〜ジュテームを君に」に出演します。

私の身長は男役をするには小さい方なんです。以前は引け目でしたが、娘役と同じようにリフトしてもらって宙を舞えるとか、誰よりも素早く動けるとか、今は小柄をプラス要素に数えています。神勢大也は「神のように素早く、ダイヤのように輝く」という意味。夢は宝塚歌劇団やOSK日本歌劇団の人たちに認められるようなフリーの男役になること。自分のブランドで舞台に立ち続けたいですね。



男役として舞台に立つ（中央）

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

卒業後に男役エンターテイナーとして武庫女に貢献できることはうれしく、感慨深かったです。当日会場に来てくれた人だけでなく、ラジオを聴いてくれた全ての方に私の存在や生き方を知ってもらったこの機会に感謝です。

2 周りの反響

ラジオ放送後、たくさんの方から「聴いたよ!」と声を掛けられました。「らしさが出ていたね!」と、うれしいコメントもいただきました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「擬音がいっぱい面白くてよく伝わったよ」という感想や「聴いてて笑顔になったよ」という声も。みなさんすごく楽しんでくださったようで私が幸せな気持ちになりました!

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

もっと多くの方に自分のパフォーマンスを見てもらいたい! もっと多くの方に私を知ってもらいたい!という気持ちになりました。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

日本でもこんなに大きく恵まれた学院はないと思います。武庫川学院が日本だけでなく世界からも注目される学院になりますように。そのために卒業生の一人として精進して参ります!



玄米を食べて食糧支援 ブラウンライスボランティア



(左から) 蒔田さん、大西さん

大西 陽香さん
生活環境学部食物栄養学科3年

蒔田 紀子さん
文学部日本語日本文学科2年



ブラウンライスボランティアは、大河原学院長の発案で2010年から始まった大学公認のボランティア団体、通称「ブラ★ボラ」です。毎月1週間のブラウンライスウィークに、玄米を使ったヘルシーなメニューを大学や附属中高の食堂で提供。売り上げの10%を国連 WFP（世界食糧計画）に寄付して、飢餓で苦しむ子どもたちに給食を届ける活動に貢献しています。

現在、7期のメンバーは73人。メニューを考案するメニューパート、レクリエーションや文化祭の模擬店を担当するイベントパート、ブラウンライスウィークにピラを配ったり、SNSで情報発信したりする広報パートに分かれて活動しています。人気メニューは、とろとろの濃厚ソースがかかった玄米デミグラスソースオムライスや、野菜たっぷりのスパイシーなタコライス。玄米はビタミンB1が豊富で健康や美肌にもいいんです。メニューは学生主体で考案し、食堂の方との話し合いの中で決定します。価格を抑えて販売するので、材料費が高いものや調理に時間がかかるものは、はじかれませう。

2014年から兵庫県丹波市で、玄米の栽培にも取り組んでいます。毎年、5月の田植え、9月の稲刈りにバスで出掛けます。みんなでおかずを持ち寄って、青空の下でわいわい食べるのは気持ちいいですよ。収穫した玄米は文化祭で販売し、その売り上げもまた、世界の食糧支援に生かします。

こうした活動がきっかけで2018年5月、武庫川女子大学が大学として初めてWFPと連携協定を結びました。先輩たちから受け継いできたことが形になって、本当にうれしかった。

連携協定締結で、ブラ★ボラの注目度も上がっています。これをスタートラインと考え、気持ちを新たに頑張りたい。食物栄養学科だけでなく、幅広い学部学科の人が参加して武庫女全体で飢餓に対する理解を深め、この活動を盛り上げたいですね。

新たなメンバーの募集は文化祭で行います。今日のオープンキャンパスでも特設ブースでおそろいのオレンジのTシャツを着て活動しています。興味のある人はぜひ、のぞいてください。



オレンジのTシャツで活動中

ラジオ出演を終えて

大西 陽香さん

1 周りの反響で 印象的な言葉、リアクション

ラジオを通して聴くと藤田さんと私の声が似ていたようで、友人や母から「どっちがしゃべってるの分からへん!」「1人でしゃべってると思ってた!」と言われました(笑)

2 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

ブラ★ボラの注目度が高まった今、さらに活動を盛り上げられるように、残り短い任期ですが、次期生に向けて私にできることはすべてしようと改めて思いました。

3 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

日本中の誰もが知っているような、有名な学院になってほしい。ブラ★ボラが継続していればうれしいです。

藤田 紀子さん

1 出演した感想

質問に答えながら、改めてブラ★ボラを深く見詰め直すことができました。

2 周りの反響

身近な人にもブラ★ボラの活動を知ってもらえました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「ゲスト扱い!」「すごいね」「ブラ★ボラはこんな活動していたんだ」

4 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

ブラ★ボラの活動にさらに熱が入り、来年もブラ★ボラの一員として活動したいと思うようになりました。



IT業界のヘッドハンター 世界トップをめざして



富山 世理菜さん

Robert Half 大阪オフィス勤務
文学部英語文化学科2010年卒

アメリカの人材紹介会社「Robert Half」大阪オフィスでIT関連の人材のヘッドハンティングに携わって3年になります。業務は、主に日本に法人を構える外資系のIT企業に対し、バイリンガルの人材をご紹介します。Robert Halfは登録してくれた人に仕事を紹介するようないわゆる「待ち受け型」ではなく、こちらから優秀な人材を探してマッチングする“攻め”のエージェントなので、ヘッドハンターとしては優秀な人材をどれだけ把握しているか、ネットワークの広さと情報量が勝負です。マッチングにはITの知見や技術力はもちろん、人柄、企業カルチャーとの相性も見極める眼力が必要です。「この人」と見定めても、なかなか二つ返事で「行きます」とは言ってくれません。その人がキャリアの中で大切にしているポイントや、今の職場の不満を把握した上で、心に響く言葉を探りながら粘り強く口説きます。

ハンティングの手法に特にセオリーがないのは、外資ならではのようです。数多く打ってマッチする人を見いだすやり方もありますが私は少数精鋭型。厳選した人を紹介する



ので、口説いた3人に1人は入社に至ります。「まさに探し求めていた人材だ!」と、企業さまに喜ばれると達成感がありますね。

大学卒業後は印刷会社に勤めましたが、夫の海外駐在に伴い、退職してアメリカに渡りました。右も左も分からないまま人材派遣会社「パソナ」アトランタ支店でリクルーターの職に就いたのが、新たな一歩になりました。大学時代、武庫川女子大学のアメリカ分校に8か月留学した経験と英語力があつたから、踏み出せたのです。パソナでの実績が帰国後、今の会社との橋渡しになりました。附属中高の新体操部で鍛えた体力と根性も、外資の厳しい環境を生き抜く糧になっています。武庫川での10年がなければ、今のキャリアは築けなかったでしょう。

Robert Half では、ヘッドハンターの毎月の実績がランキングで表示されます。グローバルでトップに入るとアワードが贈られ、年1回、ラスベガスで行われるラグジュアリーなパーティーに招待されます。そこにノミネートされるのが夢ですね。今はアジアリーグでトップを争う位置にいるけれど、世界はまだまだ。でも案外、手が届くところにいると、自覚しているんですよ。



最優秀社員賞の賞状を手に

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

適切な表現で聞き手に分かりやすい表現を、と思えば思うほど言葉を選ぶのが難しかったです。終始楽しんで収録に参加しました。

2 周りの反響

母や叔母は武庫川中高大卒業生なので、卒業生・同級生に声を掛けて、私の出演を知らせてくれました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

武庫川の中学を受験したい娘さんがおられる方から、「娘も一緒にラジオを聴きました。受験に対してやる気が増したようです。ありがとうございます」と言われました。

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

武庫川学院の卒業生として、大きな成功を残したいと、さらに強く思うようになりました。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

生まれてくる娘も武庫川に入学させたいと思っています。娘が武庫川で伸び伸びと学生生活を送り、大きな夢に向かってまい進できる将来を想像します。母の在学時より、私の在学中の方が学院がグレードアップしていたように、娘が入学するころは、個々の学生が能力を最大限に発揮できる学びの場を提供する学院として、よりグレードアップしてほしいと願っています。



おいしいカップスープできたよ！ 企業と商品を共同開発



完成したカップスープを披露する学生たち
前列左が竹ノ内さん、前列右が瀬沼さん、
後列左端が福田さん

竹ノ内 七海さん
福田 史織さん
瀬沼 玲衣さん

生活環境学部
食物栄養学科4年



私たちが株式会社大森屋と共同開発した「トマト&豆乳仕立て野菜たっぷりスープ」が8月10日から全国発売されました。2017年に先輩たちが手掛けた「ゆず香る野菜たっぷりスープ」の第二弾です。食物栄養学科では3年生になると4つの分野に分かれるんですが、食の栄養価などを研究するフードサイエンスコースに所属する私たちに対し、大森屋さんから「新しいレシピを開発したい」という提案がありました。集まったレシピをもとに、提案者8人と大森屋が検討を繰り返し、何度も試作して、分量を微調整しながら完成したのがこのスープです。パッケージも私たちがデザインしました。赤をベースに文字が手書き風だったり、豆乳の豆の文字にハートが入っていたり、持っているだけで様になるでしょ。

竹ノ内：トマトと豆乳の組み合わせは私の提案がもとになりました。大豆のイソフラボン、

トマトのリコピンは、女性が好きな栄養素なので、こういうのがあればいいな、という気持ちを形にしたのですが、採用されてうれしかったですね。まるやかなトマト風味なので、トマト嫌いな方でも食べやすいと思います。この企画で商品開発の面白さを実感。卒業後は商品開発の道に進みます。

福田：スープに浮かんでいる大麦パフは、私が提案した玄米おこげのアレンジで生まれました。ヘルシーだし、もちもちした食感と野菜のしゃきしゃき感が合わさって、すごくおいしいんです。いろんな人の意見を取り入れながら一つの商品にする過程は貴重な経験でした。来春から武庫川女子大学の大学院に進学します。将来は管理栄養士の資格を生かしながら、食品の研究に携わりたいと思っています。

瀬沼：私は発売が夏になると聞いていたので、冷房冷えの対策になるよう、体を温める効果のあるしょうがを提案しました。しょうがは最後までトマトと競り合ったんですが、試食したら豆乳とトマトがこんなに合うことに驚いて、私もトマトを支持しました。卒業後はスーパーマーケットの商品開発に携わります。今回の経験を生かし、お客さまのニーズをしっかりと捉えて商品を生み出していきたいですね。

ラジオ出演を終えて

竹ノ内七海さん

- 1 **周りの反響**
カップスープに興味を持った方が実際に買って食べてくれました。「おいしかったよ!」という声をたくさんいただきました。
- 2 **出演の前後で気持ちや暮らしに変化は**
出演後、MUKOJO ラジオをよく聴くようになり、活躍している卒業生が大勢いることを知りました。卒業後もラジオに呼んでいただけるような活躍をしたいと強く思うようになりました。

福田 史織さん

- 1 **周りの反響**
ラジオ放送終了直後に先輩から「堂々と夢を語っていて感動したよ!」とLINEが届きました。
- 2 **1で印象的な言葉、リアクション**
親戚がカップスープを購入し、職場に配っていました。
- 3 **出演の前後で気持ちや暮らしに変化は**
気持ちや考えを端的にまとめて話すことを意識するようになりました。

瀬沼 玲衣さん

- 1 **周りの反響**
後輩がたまたまラジオを聴いて、すごく驚いたと言っていました。
- 2 **出演の前後で気持ちや暮らしに変化は**
スープ開発について振り返ることで、いい大学生活だったなと感慨深かったです。卒業論文や国家試験も頑張ろうという気持ちになりました。
- 3 **20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは**
みんなから憧れられるような、カッコいい大学になってほしいです。卒業生が母校を誇りを持って語れるような。



書の道から筆文字アートへ マルチな才能で新たな展開めざす



佐々木 彩さん

書道家、筆文字アーティスト
文学部日本語日本文学科2007年卒

書道を始めたのは小学校低学年のころ。伝統的に書道に強い武庫川女子大学に進学し、同じ流派の西山明美先生のゼミに所属しました。書道の教員免許取得をめざしながら、様々な作品に取り組みましたが、普通の書道に飽き足りなくなってきた。あれこれ試す中から、絵と文字を合わせた筆文字アートのスタイルが生まれました。ポストカードやメッセージカードにイラストと好きな文字を入れて、手作り市が立つときに出品すると、「かわいい」と、買ってくれる人がいる。それがうれしくて、フリーペーパーとコラボするなど、活動の幅を広げました。

「外国人に書道を教えたい」「書道の先生になりたい」と、未来を描いていたものの、書道教員の採用はごくわずかで、望み薄でした。大阪に本社があるミキハウスに就職。配属された神戸店で、店のチラシづくりやイベントの告知ポスター用に、大好きな絵や書を描き続けられたのはラッキーでした。

一方で、書道にまつわる夢を諦めきれません。3年目に仕事を辞め、ニュージーランドで1年間のワーキングホリデーを経験し、



スタジオで自筆の書を広げる佐々木さん

英語力を鍛えました。が、いざ帰国してみると、期待した「英語で書道を習うニーズ」はほとんどなく、再び仕事の傍ら書道を続ける暮らしに逆戻り。どっちつかずでしたが、一先会の柴原月穂先生に師事して改めて書道と向き合い、「私はやっぱり書道でやっていきたい」と、心を決めました。先日は読売書法展で入選しました。通知が届いていたのに、「まさか」と、しばらく封を開けていなかったんですよ。

筆文字アートも、ぼち袋やはがき、カレンダーなど、バリエーションが増えてきました。最近、ハンドメイドの作品展に出品した際、「似顔絵を描いて」と頼まれたのがきっかけで、似顔絵を始めたんです。その場でご本人を描くだけでなく、写真を見せてもらって家族写真を描いたり、大型のものはオーダーをいただき、後日作品を郵送したり。自分でも楽しいし、ワクワクする時間です。ずっと続けたいですね。

やっぱり私は書道が好き。子どもが好き。人に教えることが好き。だから、いつか教室を開いて子どもたちに書道を教えたい。あ、今おなかの中に、赤ちゃんがいるんです。この子にも、いつか書道を教えたいですね。



あったかく、ユーモラスな
佐々木さんのイラスト

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

書道や絵の活動について、改めて考えたり見詰めたりできる、良い機会をいただきました。出会った人たちの顔がたくさん思い浮かびました。

2 周りの反響

家族、友達、みんな喜んでくれました。義理の母は、今回のために radiko.jp のアプリをダウンロードして聴いてくれました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

私がどういう思いで書道続け、どういう思いで絵を描いているのか、知ることができた、と言ってもらえてうれしかったです。

4 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

普段からFMをよく聴くのですが、プロの人は本当にすごいなと、話す側の視線で意識して聴くようになりました。また、両親が私の幼少期の習い事にお習字を選んでくれたことがすべての始まりだったと気づき、感謝しなければと感じました。武庫女に進んだ理由の一つでもあるので！

5 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

在学生・卒業生以外の人にも、もっともっと武庫女のことを知ってもらいたいです。夢や希望をかなえるためのサポートに学生との距離の近さを感じます。やっぱりいい学校だなあと、卒業した今もすごく感じます！



警察官になる！

挑み続け、秋田県警で夢かなう



小島 有子さん

秋田県仙北警察署 角館駅前交番
地域系 巡査長 秋田県巡査
文学部健康・スポーツ科学科2010年卒

小学1年から習っていた剣道で、よく警察OBの方に指導をいただくことがあったんです。単純に「かっこいいなあ」「警察官って強いなあ」と。憧れですね。その気持ちは競技スキーに打ち込んだ大学時代も変わりませんでした。ところが、警察官採用試験は不合格。しかも4年生の秋に靱帯を断裂する大けがをして、就活もできなくなってしまいました。

卒業後は学寮のチューターをしながらリハビリを続けました。あるとき、寮生が痴漢に遭って泣きながら帰ってくるという事件が起きました。女性警察官が親身に話を聞いてくださり、犯人も逮捕されて平穩が戻ったのを見て、「弱いものを狙う犯罪者は許せない」「やっぱり警察官になりたい」と、決意を新たにしました。警察官の採用試験は地域によって時期が違うので、北は北海道から南は福岡まで、エリアを問わずチャレンジしました。

私、身長が152cmなんです。ガッツとやる気はあるんですが、見た目が強そうじゃない。兵庫県警の面接で「君はおとなしそうだね、小柄だけど大丈夫？」と面接官に言われ、「ああ、これは弱点だ」と気付きました。



道案内をする小島さん

自衛隊に2年任期制があることを知り、「自分を内面から変えよう」と、入隊を決意。男性の隊員に混じって^{ほふく}前進はもちろん、30キ口の山道を歩くこともありました。体力も精神も鍛えられましたね。語るべき中身ができたことで自信が付き、改めて警察を受験したときには、こうした体験をしっかりとアピールできました。

2015年、秋田県警に合格。翌春、憧れの青い制服を着たときは涙が出ました。警察学校を卒業して今は、2場所目の交番勤務です。落し物の処理や道案内、防犯指導や交通指導もしています。高齢の方が多いので、お宅を訪問すると「おぢやっこ飲んでけえ」なんて、歓迎されて。地域の方と距離が近いですね。

今は長年の夢がかなって満足感でいっぱい。回り道と思えたことも、振り返ればすべて成長の糧になりました。いずれ交通課や刑事課など専門分野に進むことになるけれど、まずは足元をかためて、自分を一番、発揮できる分野を見定めていきたいと思っています。

後輩のみなさん。警察官になりたいなら、全国にチャンスがあります。ぜひ関西のパワーを日本中に広めてください。秋田県警も待っていますよ。



交番前のりりしい制服姿

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

緊張しましたが、塩田さんが上手に話を引き出してくださいました。ラジオ出演は初めてで、今後もないと思いますが、ラジオ好きの私としては、出演できて大変うれしかったです。

2 周りの反響

同僚、上司からは大学がラジオ番組を制作していることに驚かれました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「上手にまとめてもらったね」が、家族の第一声でした。

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

改めて自分自身のことを振り返ることができました。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

ラジオ出演にあたり、久しぶりに中央キャンパスに足を運びました。懐かしさが込み上げるとともに、私のときにはなかった学部や建物があり、さらに学びの機会が増えているのを感じました。「武庫女って魅力的だな」と思ってもらえたら、卒業生としてはうれしいです。100周年になっても、温かく卒業生を迎えてくれる場所であってほしいです。



旅が好き、空港が好き 関西国際空港で13年勤務



岩池 久美さん

タイ国際航空勤務

文学部英米文学科1998年卒

海外旅行が大好きで、大学時代は友達とアジアやヨーロッパを旅して回りました。卒業後、損保会社に就職したものの、「自分がやりたいことは違う」という思いがぬぐえず、全日空の関連会社に転職しました。実は私、飛行機酔いがひどいんです。だからCAになる夢は描けなかったのですが、空港の空気感も大好きなので。関西国際空港でグランドスタッフとして搭乗手続きをしたり、お荷物の破損や未着に対応したり、充実した日々。ただ、あくまで空港ハンドリング業務の会社のため、フライトをメインで担当する場面はなく、「これも少し違う」と、現在のタイ国際航空に2度目の転職をしました。

今度はお客さまだけでなく、お荷物、お食事の搭載からクルーとの打ち合わせまで、フライトの全責任を負う立場です。お客さまのクレームの矢面に立つこともあります。やりがいは増えました。ハプニングもあります。修学旅行の生徒さんがパスポートに穴をあけて紐を通し、首から下げて持ってこられました。「なくしたら大変」という親心でしょうけれど、



空港勤務時代。中央が岩池さん

パスポートは穴をあけると無効です。手を尽くしましたが、結局、その生徒さんは修学旅行に行けず、気の毒でした。新婚旅行に出掛ける直前のご夫婦が、けんかを始めるケースもよくあります。ラブラブから一転、大ゲンカになったカップルは、出発時間になっても収まらず、結局、奥さまは旅行を取りやめて、ご主人だけ旅立たれました。

2011年に来日したブータンの国王夫妻を機内までご案内したのも忘れ難い思い出です。私、あまりに緊張してタラップを一段踏み外したのですが、後ろにいらした国王が気遣ってくださって、感激でした。そうそう、大みそかは深夜0時に始まる最終便の搭乗手続きに合わせ、お客さまと新年をカウントダウンするのが楽しかった!

2014年に空港を離れて予約発券課に異動になり、今は長男の子育てに追われながら9時～5時の勤務です。13年間、過ごした関西国際空港は懐かしいけれど、シフト制の勤務は体力的にもう無理かしら。台風等でイレギュラーが生じると12時間以上働く事態もざらでしたから。これからも空の仕事にずっと関わって、いつか息子を連れて家族で海外旅行をしたいですね。



(右から2人め)

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

非日常の体験ができ、とても楽しかったです。

2 周りの反響

あまり上手にお話しできなかったのが恥ずかしくて放送日は秘密にしました。でも、みんな冊子ができるのを心待ちにしているそうです。

3 2で印象的な言葉、リアクション

友人が「私も出たい」と言っていました。

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

将来の夢を聞かれた際に「今のままで」とお答えしたのですが、いつか、着物着付け講師の免許を生かし、タイ人に向けて着付け教室を開きたいと思っています。お茶の免状も取って、お茶会に出たり、お茶会を開いたりもしたい。その夢を、子育てにかまけてどこかに置き忘れていたのですが、思い出すことができました。これから夢に向け、準備を進めます。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

学生がみんな毎日を楽しんで、将来みんなが武庫女時代を振り返った時に「楽しかった」「あのころは輝いていた」と思える学院であってほしいと思います。私も今、そう思えるので。



おから入り味噌の研究から、 甘酒の機能の研究へ



植田 愛美さん

マルコム株式会社 マーケティング本部開発部研究開発課
生活環境学部食物栄養学科2013年卒
院生活環境学研究科食物栄養学専攻
修士課程2015年修了

マルコメの研究開発課で主に甘酒の機能を研究しています。就職とともに始めた信州での一人暮らしも3年めになりました。

大学入学当初から、「将来は食品の会社に行く。そのために大学院に進学する」と決めていました。大学と大学院を通して3年間、おから入り味噌の開発を研究。通常、味噌は大豆と米麴と食塩で作るのですが、その大豆の部分を食物繊維豊富なおからに替えて、味噌を作ろうというのが研究の趣旨です。おからが多いとうまみが減り、舌触りもパサパサとしてしまうので、微生物の力でどこまで分解し、うまみを引き出せるかがポイントでした。

私が師事した松井徳光教授は、きのこの発酵能を生かした機能性食品研究で知られ、研究室は培養中のきのこでいっぱいです。きのこは繊維質を分解する力が強いので、おから入り味噌に加えると、おからの繊維質を分解すると考えました。そこで、通常米麴で使用される麴菌をきのこの菌である担子菌に替えたところ、なめらかな食感が得られました。数ある担子菌を試して、麴菌で作る通常の味噌に引



けを取らない味を実現。この研究で、「日本きのご学会」の優秀ポスター賞を受賞しました。

卒業後は、健康志向の食品メーカーで働きたい、という夢がかなってマルコメ株式会社に就職しました。社内は「味噌汁飲み放題」なんですよ！

マルコメは味噌が有名ですが、私が担当する甘酒シリーズ「糀甘酒」も人気商品です。プレーンをベースに、ゆず、生姜、豆乳などいろんなフレーバーがあり、全国のスーパーで販売しています。国産米100%でアルコール0%。甘酒は「飲む点滴」といわれるほど栄養豊富なので、薄めて赤ちゃんの離乳食にもなるんです。甘味もあるので、疲れたとき、食欲がないとき、山登りのお供にと、様々なシーンにオススメです。

甘酒は「美容に良い」といわれます。そのエビデンスを明らかにするために、甘酒と肌の保湿力について研究を進めています。実際に乾燥肌の女性を集めて甘酒を飲んでもらったところ、肌の水分量が保持されたり、バリア機能が高まったり、飲まない場合より、良い効果が見られました。

研究はすぐに結果が出ないし、仮説通りにいかないこともあります。一つのテーマだけ追うのではなく、たくさんの研究の種を育て、どんだん結果を出していきたいですね。



ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

声だけで出演するというのは初めての経験でした。声色が少し違うだけでこうも伝わり方が違うのだと、自分の声を聴いて驚きました。

2 周りの反響

聴いてくれる人がたくさんおり、反響は大きかったです。「武庫女ってラジオ番組も持っているだね」と驚かれることが多かったです。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「マルコメってお味噌だけじゃないだね」と言われました。甘酒や大豆ミートといった商品も世に出していますがやはり味噌のイメージが強いんだなあと再認識しました。

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

改めて自分が武庫川女子大学出身だということを思い出しました。「卒業後にこんな楽しい仕事をする道もあるんだなあ」と後輩に示すことができればいいなと思ながら仕事を続けています。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

小学校ができて、幼稚園から大学院までそろえばいいなと思います。また、理系の学部（食物栄養・薬学・看護）で一緒に勉強し、チームで活動するなど、大学内の人材をフル活用できればいいなと思います。他大学との交流が少ない印象なので、いい意味でもっと地域に開かれた大学になってほしいと思っています。



一人ひとりの成長する力を信じて 学生の心に寄り添う



堀 智美さん

臨床心理士 武庫川女子大学
学生相談センター学生相談員
文学部人間科学科2005年卒
院文学研究科心理臨床学専攻修士課程2008年修了

小学6年生のとき、阪神淡路大震災に遭いました。家族に被害はなかったけれど、水もガスも電気も止まって、全半壊した家も多く、風景は一変。子ども心に衝撃でした。そんなとき、神戸市の臨床心理士の方々が小学校を回って私たちの話を聞いてくれたんです。「大丈夫？」と優しく声をかけられ、不安が和らぎました。カウンセラーという職業を知り、「いい仕事だな」と思った気持ちが、いつか将来の夢につながりました。

臨床心理士として、自治体の相談窓口や学校、民間病院などでカウンセリングを続けてきました。カウンセラーの仕事は、失敗の取り返しがききませんが、はじめはうまくいかないことも多々あって落ち込みましたが、先輩や仲間を支えられ、クライアントから学びながら私も成長してきました。2018年4月から、母校の学生相談センター（がくそう）で主に学生の悩みに向きあっています。

大学生といえば青年期後期。自分とは



ソファでくつろげる
がくそうのサロン



何か、というアイデンティティー確立の課題に直面する時期です。もう子どもではいられないけれど、社会人としてやっていけるのか、プレッシャーもあるでしょう。そんな揺れ動く気持ちを受け止め、一緒に解決の糸口を探るのが、私たち学生相談員です。

がくそうでは年間250～270人から相談があります。まだまだ「敷居が高い」と感じる人は多いようで、いかに開かれた相談の場をつくるか、日々工夫を重ねています。相談に来て、「こんな相談ですみません」と、恐縮する方もいますが、悩みに大きいも小さいありません。生きていたら、しんどい時期や辛い出来事があるのは当たり前。そんなときは、落ち込んだり、投げやりになるのは人として当然の反応だということを、学生たちに知ってもらいたい。話をすることで悩みが整理され、少し軽くなり、もう一步、歩み出す自信を持つことができれば、やがて健康な自分に戻れるはずです。

誰でも成長する力を持っています。私たちはサポートをするけれど、最後は一人ひとりの力を信じ、本人に託します。困ったときは一人で悩まず、「がくそう」を訪ねてください。



ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

初めは少し緊張していましたが、塩田さんやスタッフの方々があたたかく接してくださったので、楽しく収録することができました。

2 周りの反響

家族や友人から、放送直後、たくさんメッセージをもらいました。がくそうのスタッフは録音して、みんなで聴いてくれて、うれしかったです。

3 2で印象的な言葉、リアクション

友人から「カウンセリングは何となく怖いようなイメージだったけど、話を聞いて少し理解できた」と言ってもらえました。

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

今の職業についての経緯や仕事に対する思いを語る機会はあまりないので、自分自身を振り返る時間となりました。これからも武庫女生の皆さんのために力を尽くしたいと思います。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

武庫女に通う学生がみんな笑顔で過ごし、卒業後もすてきな学校生活だったと思えるような場所であってほしいです。私は武庫女の卒業生であることを誇りに思っています。これからも女性が元気に活躍できる武庫女であり続けることを願っています。



ラジオCMコンテストで受賞 武庫女の魅力をCMで発信



(左から)
稲垣さん、(塩田さん)、古谷さん

稲垣 美香さん
古谷 菜由さん

生活環境学部
情報メディア学科3年



JFN学生ラジオCMコンテスト2018で、私たちの作品が全国2469件(近畿ブロックは271件)の応募の中から、ブロック賞を受賞しました。

私たちのゼミはマーケティングが専門なので、ゼミの赤岡仁之教授から「やってみないか」と呼び掛けられたときは戸惑いました。でも、アイデアを出すうちに、みんな乗り気になって、3チームで13作品を応募。私たち5人は5作品を応募し、うち1作品が受賞しました。

受賞作は「場内アナウンス～学科紹介編～」。

甲子園球場で、ウグイス嬢が学科名をスターティングメンバーのように読み上げます。学科名のあまりの多さにヤジが飛ぶと、「甲子園球場から一番近い大学 武庫川女子大学」と、アナウンスが流れます。

この作品は、FM OH!の協力でラジオCMとして制作し、8月に2週間、近畿のFM3局で放送されました。私たちもCM収録に立ち会いましたが、声優さんが私たちの意見を聞きながら演じてくれるんです。アドリブで

「どこの学校や」というセリフが入ったときは「こっちの方がいい!」と全員、納得でした。学科名をすべて読み上げると時間が足りないので、途中を早送りに加工して、ぴったり40秒に収める技は「すごい」の一言です。自分たちが考えたコピーが目の前でどんどんいい作品になっていって、うれしかったですね。

CMの放送初日は、各自、自宅でラジオの前にスタンバイし、いつ流れるんやろう?とわくわくしながら、放送を待ちました。実際にラジオからCMが流れたときは感動でしたね。

CMづくりを通して、自分たちの母校の魅力を再確認できました。「甲子園球場に近い」だけでなく、梅田も三宮も難波も30分あればいける利便性の良さ、全国から学生が集まっていること、理系にも文系にも強いことなど、アピールポイントがたくさん見つかりました。受賞には至らなかったけれど、「月曜日は難波に行った、火曜日は三宮に行った」と、利便性の良さを「一週間の歌」の替え歌で表現したCMも、結構いいでしょう?

この経験を通して、頑張ったら結果がついてくることを実感でき、自信になりました。ほかのことも頑張ろう、と意欲が湧いてきます。



FM OH!でCM制作に参加したゼミ生ら

ラジオ出演を終えて

稲垣 美香さん

1 出演した感想

ラジオから自分の声が聴こえてきたときは、恥ずかしさと、出演できたうれしさが半々の気分でした。

2 周りの反響で印象的な言葉、リアクション

父は普段からよくラジオを聴いているので、私が出演したことをとても喜んでくれました。

3 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

MUKOJOラジオのTwitterをちゃんと見るようになりました。自分もこれに出演したんだなと思うとうれしくなります。

4 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

自分の20年後も想像するのが難しいですが、武庫女が今以上にみんなが行きたくなる学校になればいいなと思います。

古谷 茉由さん

1 周りの反響

ゼミ生から「聴いたよ!」「ラジオなんてすごいね!」と言われ、うれしかったです。離れて暮らす両親が「頑張っている姿が伝わってきた」と、電話をくれました。ラジオを通して、頑張る姿を見せることができよかったです。ラジオを聴いた妹が「私も出演したい」と言っていました。

2 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

ラジオで自分の思いを伝えた経験を、就活の面接に生かしたいです。

3 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

全国で名を知られる学院になってほしいです。



寮生を見守り26年 教育寮の理想を受け継いで



上原 知永さん

淳正寮寮母 (寮監補助員)

文学部教育学科体育専攻1986年卒
文学専攻科教育専攻1994年修了



淳正寮の食堂で学生と
(左から2人め)

薬学部に近い淳正寮で26年、寮母(寮監補助員)をしています。

附属中高の教員時代に同僚だった夫と結婚。他校の非常勤講師をしながら、母校の専攻科で学び直しを始めたところへ「夫婦で寮監と寮母を引き受けてほしい」という話が舞い込みました。急な事情で一晩で決断しなければならず、「とりあえずやってみよう」と。こんなに長く続くとは思いませんでしたが、愛着が湧いて離れがたく、今に至っています。

武庫川女子大学の学生寮は、教育の一環としての「教育寮」と位置づけられ、教職員が寮監寮母として住み込んで、寮生と寝食を共にします。部屋も個室ではなく、相部屋。寮生が寮務委員長や美化、文化、体育など役割を分担して、寮を自分たちで運営しています。

淳正寮の寮生は現在87人。主に薬学部 of 学生なので、1年生から最年長は6年生まで。入寮当初は修学旅行気分がで賑やかですが、だんだん自分のペースができて落ち着いてきます。部屋は学年が重ならないよ

うに割り振るので、1年生と6年生が同室の場合もあります。同級生の方が気楽でしょうけれど、年齢差のある相手と、いい意味の緊張感を持って過ごすのも、うまくいく秘訣のようです。

寮は、他人の気配が常にある暮らしですから、今どきの個室育ちの子たちが、よくやっていると感心しますよ。夜10時の点呼に遅れてはいけない、食事も入浴も決められた時間に済まさなければならぬ、など、ルールを守りながら、生涯の友達を見つけていく。空気を読む力や距離感など、人間力がすごく鍛えられると思います。

寮母の仕事は主に点呼や見守りです。家族の話や恋の話、悩み事を話しに来る子もいて、他愛もない会話をあれこれと。時には叱ることもあります。最近は災害が多いので、いざというとき、この子たちを絶対に守らなければ、という責任は常に感じて暮らしています。

これほど長く、学寮としての伝統を受け継いだケースは、全国でも珍しいでしょう。時代の流れとともに、寮も変革の時期を迎えています。これからも学生を陰ながら見守っていきたいと思います。



ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

特別な体験で、とても面白かったです。同日に収録した学生さんや卒業生さんのお話にも大変刺激を受け、武庫女生の活躍に誇りを感じました。

2 周りの反響

遠方に住む姉が、radiko.jpの登録をして聴いてくれました。また、高校生の息子が聴き逃した放送をradiko.jpから録音してくれました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

べらべらよくしゃべってるとびっくりされました。

4 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

自分でも驚くほどとてもリラックスしてお話できましたが、聞き手の力あつてのことと思えました。心を込めて人の話を聞くことの大切さを感じた経験でした。

5 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

武庫女は学生時代を完全燃焼した、思い出の詰まった場所です。20年後も学生が生き生きとチャレンジできる場所であってほしいと願います。そして、多様な価値観、多様な生き方を応援できる大学であってほしいです。



より険しい山に登りたい 英語を武器に3度の転職



中岡 祐子さん

駐大阪・神戸米国総領事館 商務部
セレクトUSA商務専門官
文学部英語文化学科2001年卒

附属中高のころから世界史の資料を眺めるのが大好きで、関心はいつも世界に向いていました。英語ができれば世界中どこへでも行けて、誰とでもコミュニケーションできる! 大学で英語文化学科に進んだのも、アメリカ分校での海外留学がカリキュラムに組み込まれていたのが決め手でした。

ワシントン州スポケーン市にあるアメリカ分校は、小動物が遊ぶ緑いっぱいのキャンパスで勉強に集中するには最高の環境です。3か月ほどの留学で、TOEICのスコアが220も伸びました。

卒業後、商社に就職したものの英語を使う機会はほとんどありません。「このままでいいんだろうか」と、“3年目の迷い”が生じたころ、偶然にも大学時代の恩師から「アメリカ分校のアドバイザーを募集しているので応募しないか」と、声が掛かったんです。もう飛びつきました。5年の期限付きでしたが、思い出の地でお世話になった先生方とスタッフとして働けるなんて、素晴らしい経験でした。

帰国後は、在日米国商工会議所の関西支部



世界のポストで働く同僚と
ワシントンDCで再会

に転職。様々な業界で、グローバルに活躍する人たちとお仕事ができ、視野が広がりました。

私、“山”を登りきるとより大変な“山”に挑戦したくなる性分なんです。このときも、ある程度、全体が見渡せたところで転職に動きました。ちょうど、アメリカ政府が新たな組織「セレクトUSA」のポジションを日本に作ったと聞いて「おもしろそう」と応募したのが現在の仕事です。

私が配属されている商務部は、アメリカ商務省の一機関です。業務はアメリカの製品やサービスの輸出促進、日本からアメリカへの投資促進など。私はアメリカへの直接投資を支援する担当です。日本の企業がアメリカに進出したり、ビジネスを拡張したりするお手伝いですね。例えばアメリカで工場建設を検討している企業があれば、その企業の情報やこれまでの経緯、現地で調査してほしい内容などを英文レポートにまとめて、本部のワシントン DC に的確に伝えなければなりません。日々勉強です。加えて2019年6月に大阪で開催されるG20サミットに向けた資料作りなど、様々な業務があります。3度目の転職はこれまでになく険しい山で、まだ頂上は見えません。もっと勉強して、軽やかに歩けるようになりたいですね。



ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

緊張しつつも自然体で話すことができました。自分のことを何も知らない方に声だけで伝えることの難しさを感じました。収録と一緒に参加した先輩、後輩と「武庫女あるある」話で盛り上がったのも楽しかったです。

2 周りの反響

スタッフの方の素晴らしい事前準備があったことを知らないので、「準備と練習にものすごい時間がかかったのでしょうか？」と言われました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「MUKOJO ラジオなんてあるんだ、スゴイ!!」

「いろんな仕事を経験していたのですね…」

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

武庫女生たちがいるんな分野で活躍していて、すてきだなと思いました。(同級生が芸妓さんになって、先に MUKOJO ラジオにゲスト出演していたのを知ってびっくり!)

改めて、武庫川女子大学で学んで良かったと思いました。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

これからも変わらず、日本一の女子総合学園でいてほしいです。



ふと垣間見る 能の不思議な世界に魅せられて



森田 彩子さん

観世流シテ方師範

短期大学部食生活学科1993年卒

武庫川女子大学に入学してすぐ、先輩の熱心な勧誘に押されて能楽部を見学に行ったのが能との出会いでした。武庫女の能楽部は全盛期の1970年代には部員が30人近くいて、フェスティバルホールで公演するほど盛んだったそうですが、私が入学した当時は下火で、部員はわずか4人。勧誘の効果か、私の代で一気に9人が入部し、息を吹き返しました。

謡から始まって、見よう見まねで扇をさしたり、舞を舞ったり。私、正座が苦手でおけいこが終わるといつも、足がしびれてドタって倒れてました。それも何とか克服して、楽しさが分かりかけたころに卒業です。4年制の同期はまだ部活を続けるのに、短大の自分だけお能もできずに終わるのが悲しく、大学に教えにきていた吉井順先生に、卒業後、個人で稽古に通いました。

能のシテ(=主役)方には観世流など5つの流派があり、シテ方のほかに、脇役のワキ方、お囃子の囃子方、狂言方などに役割が分かれます。私は観世流シテ方として、



経正を舞う森田さん(撮影：牛窓雅之)

30歳を過ぎて、師範の免状をいただきました。弟子は取らず、土日を中心に舞台上に立っています。これまでに舞った一番の大曲は、石橋(しゃっきょう)です。現在の師匠である吉井基晴先生が親獅子を、私が子獅子を舞いました。大曲だけに、ずっと飛んだり跳ねたり、もう体力が追い付かないほどでした。

能を続けていると、苦しさを乗り越えた先にふと、人間の世界とは違う、不思議な世界が垣間見えるときがあるんですね。何とも説明がつかないのですが、その不思議な世界をちらっとでも見るために、続けている気がします。と同時に、能の世界では、私のようにまったくの素人から玄人になる人はまだ少ないので、素人の心に寄り添って、人々を能の世界にいざなう橋渡しの役割を果たせたらいいな、と思っています。

心配なのは後輩たちです。現在、能楽部の部員はわずか3人。私も時折、見に行きますが、この人数では能を舞うこともできません。まずは武庫川に能楽部があることを知ってもらいたい。鳴尾にできた新たな芸能の拠点・西宮能楽堂で、2019年2月、学生主催の自演会があります。ぜひ足を運んでください。



ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

初めての経験で緊張しましたが、DJの塩田さんをはじめスタッフのみなさまに親切にフォローしていただき、無事収録に臨めました。

2 周りの反響

聴いてくれた人から「良かった」と喜んでもらえてうれしく思いました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

FM OH! が入らない地域の方が録音までして聴いてくれたこと。

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

師範になってから、今までを振り返り、人に話すという事がなかったので、出演を通して自分の能楽への思いを再確認するよい機会になりました。

また、武庫女の能楽部の宣伝に少しでもなれば…という思いです。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

学校を選択する際に、多くの女性が「入りたい」と憧れるような魅力のある学校になっていればいいなあと思います。



赤ちゃん和妈妈の時間を快適に



平島 利恵さん

株式会社ユーリエ代表取締役社長
布おむつ専門店「Estrance」/
洗剤専門店「Rinenna」運営
文学部英語文化学科2004年卒



パッケージにもこだわって

長男を出産後2か月で、川崎市で東日本大震災に遭いました。紙おむつがまったく手に入らず、やむなく布おむつを使ったんです。それまで布おむつなんて、洗濯も大変だし、敬遠していたのですが、使ってみると意外に使い勝手がいい。洗って再利用できるし、夏場に大量のゴミの臭いに悩まされることもない。すっかり布おむつ派になり、布おむつを広めようと、2012年に布おむつのネット専門店を立ち上げました。

ただ、経験ゼロからのスタートですから、最初は縫製工場に依頼しても「できません」と断られるばかり。なんとか縫ってくださる工場を見つけて、今に至ります。これまで枚数にして10万枚、5000人以上の赤ちゃんにご愛用いただいています。

ところが、あるときお客さまから「下洗いが大変でゆううつになる」と、メールが届いたんです。洗濯機に入れる前に、汚物を取って、もみ洗いの作業がどうしても必要なんですが、いろいろな洗剤を試しても汚れが落ちないんですね。だったら洗剤を作ろうと。開発したのが

Rinennaです。2リットル以上のぬるま湯にスプーン一杯、洗剤を溶かして、汚れたおむつをつけるだけ。30、40分放置して、汚れた水ごと洗濯機に入れて、あとはお任せです。もみ洗いなしできれいに汚れが落ちるんです。体から出る汚れにフォーカスした洗剤なので、襟の黒ずみもよく落ちるといって、おむつ以外の用途に広く使われているのは、思いがけない副産物です。

布おむつは濡れたら替える、が鉄則ですから、赤ちゃんとのスキンシップがおのずと増えます。お母さんは赤ちゃんの「排せつしたい」という気持ちを察知しやすくなり、赤ちゃんとの密なコミュニケーションが生まれます。これは布おむつならではです。もちろん、お出掛けの時やしんどいときは紙おむつを使うなど、上手に併用すれば、育児の幅が広がります。

附属中高から大学まで武庫川学院で過ごしました。中高時代、クラス清掃や体育祭のマスゲームで育んだ自主性と協調性は、仕事のチームビルディングに生きています。大学時代、英語プレゼンテーションや留学等で磨いた英語力は、グローバルビジネスに大いに役立ちます。これからも、不快を快適に変える商品を生み出し、「赤ちゃんとお母さんの快適な時間」を世界に広めたいですね。



洗剤の説明をする平島さん

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

母校のラジオ番組に出演できるとは思ってもみなかったので、素直にうれしかったです。

2 周りの反響

MUKOJO ラジオがあることを知らない同級生（卒業生）が多く、私の出演云々よりも MUKOJO ラジオに興味を持つ友人が多かったです。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「すごい！ MUKOJO ラジオってあるの！！進化してる！」

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

私の作ったプロダクトを世の中に出すことや広めることの努力はしていましたが、自分自身を出すという取り組みを今までしていなかったもので、MUKOJO ラジオの出演をきっかけに、自分自身のセルフブランディングを行うことの大切さを学びました。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

女性のための時代の先を行く、学校として変化に変化を重ねて、進化してほしいと思います。



武庫女卒オリンピック カヌーでオリンピック2大会に出場



金村 祐美子さん

院生活環境学研究科食物栄養学専攻
修士課程2年

アスリート食アドバイザー

文学部教育学科体育専攻1998年卒

3歳からクラシックバレエを始め、高校ではバレーボールに打ち込みました。カヌーは大学からのスタートです。大学時代はまだオリンピックなんて遠い世界でしたが、卒業する前後から、日本代表に選ばれるようになり、少しずつオリンピックが見えてきました。アテネでは、変な緊張感もなく、持てる力を出し切りました。日本選手団としてカヌー競技で初めて決勝に進出できたのですが、そこで安堵してしまったのは反省点です。結果は9位(カヤックフォア500m)。もっと貪欲にメダルを狙いに行けばよかった!北京でも6位入賞(同)とメダルに届かず、やっと銅メダルを手にしたのは、北京から2年後の広州アジア大会でした。

オリンピックって、華やかな別世界と想像していたのですが、実際に行くと、選手村では選手が淡々と日常生活を送っていて、特別感はさほどなかったですね。アテネのときは、カヌーの選手棟が柔道と競泳と同じだったので、柔道の野村忠宏さんや競泳の北島康介さんら、有名人とよくすれ違いました。





2018年11月28日放送

第

87

回

そんな風に日本を代表するアスリートの方々と交流を持てるのはオリンピックならではです。テレビを通してみると、超人のように見えるアスリートも、実は大変な努力を重ねていて、同じような悩みを抱えていることが分ると、自分も越えられる、頑張れると励まされました。

先日、武庫川学院80周年記念イベント、座談会「オリンピックたち」が開催され、武庫川卒のオリンピックとして私も登壇しました。水泳や体操の大先輩がそろい、笑いあり涙ありで会場は沸きまくり、最年少の私は圧倒されるばかり。「スポーツに強い武庫川」の伝統を改めて感じましたね。

現在はアスリート食アドバイザーとして活動すると同時に、母校の大学院で食を追求しています。アスリートは体を追い込むので、どうしても免疫力が落ちるんですが、食の質を変えることで、風邪もひかなくなり、故障もしにくくなるのを実感したのがきっかけです。最近、オリンピックが長寿であることが分かり、その理由を明らかにしようと研究を進めています。オリンピックの一人として、その身体能力を読み解き、社会に還元したいですね。



座談会「オリンピックたち」で発言する金村さん（左端）

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

楽しくてアツと言う間でした。ラジオを聴いて、話のポイントがまとまっていなかったり、伝えたいことが表現できていないことがあり反省しました。

2 周りの反響

「MUKOJO ラジオ」があることに驚いていました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

意外と、私が上手く話すことができていた、と喜んでくれました。

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

目の前のことにとらわれず、少しでも広い視野を持ち、話は簡潔にまとめるように心掛けています。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

健康な心身を育み、家庭や次世代など社会に貢献する女性や情報を輩出する拠点となることを期待します。



共通教育科目「本を編む」で もう一つの80年史づくり



(左から) 濱田さん、豊田さん、
(塩田さん)、湯浅さん

豊田 莉加さん
生活環境学部情報メディア学科3年

濱田 真波さん
生活環境学部情報メディア学科3年

湯浅 愛理さん
文学部日本語日本文学科3年



共通教育科目「本を編む」は、2019年の武庫川学院創立80周年を記念して刊行する「武庫川学院80年史」を、学生が作る授業です。通常の正史をA面、私たちが作るのはB面と位置づけ、A、Bセットで発行します。授業は2016年度から2019年度まで4年間、開講。私たち3人は1年生から継続して受講しています。学生が年史づくりを手掛けるのは日本初の取り組みなんですよ。

図書館長の河内鏡太郎教授をはじめ、元新聞記者や編集者ら4人の先生の指導で、取材の方法や原稿の書き方などを学びつつ、年史のコンテンツを作り上げます。学年も学科も様々な学生が集まっているので、いろんな得意分野や考え方があり、刺激的です。イラストが得意な人は挿絵を描いたり、写真が得意な人は撮影を担当したり、チームプレーで進めています。

授業の特徴の一つに「記者会見方式」があります。卒業生や教職員をゲストに招き、私たち学生が質問するのですが、最初は何を質問したらいいのか、戸惑いました。他の人の

鋭い質問に触発され、思い切って発言するうち、「相手の話からキーワードを見つけ、話を発展させる」という、質問の仕方が分かってきて。「武庫女を見守る人々」や「名誉教授」などのテーマで、該当する方に取材を依頼し、グループに分かれてインタビューもしましたが、基本は同じです。

濱田：一番印象に残っているのは、1年生のとき、一期生の吉野喜美子さんをゲストに迎えた記者会見の授業です。吉野さんは90歳台の今も現役の書道の先生で、言葉にすごく力があるんです。授業の後、一筆書いてくださいとお願いしたら「愛情」と、書いてくださいました。その手帳は宝物です。

湯浅：普通に学生生活を送っているには知らずに過ごしてしまう武庫女の歴史や深い部分を知ることができます。年表を「すごろく風にしよう」と提案したら、その企画が通ったときはうれしかったです。

豊田：毎回、たくさんの文章を書くので、文章を書くことに苦手意識が少なくなりました。「自分の半径3メートル以内の出来事から書き始めると人の心をつかみやすい」というアドバイスはとても役立っています。

年史は2020年2月刊行予定です。私たちの思いがいっぱい詰まっているので、関係者だけでなく、たくさんの人に読んでもらいたいです。



印刷会社社長に話を聞く

ラジオ出演を終えて

豊田 莉加さん

1 出演した感想

リスナーに分かりやすく話さなきゃ、どこまで丁寧に言うべきだろう、と考えすぎて、話すスピードに思考が追いつけなかったです。途中からは調子が乗ってきて、緊張もほぐれました。

2 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

少し度胸がつきました。人と会話するとき、答えやすいよう、丁寧に問いかけようと心掛けています。

濱田 真波さん

1 周りの反響

「声が違う!」と言われました。声が低いのがコンプレックスでしたが、ラジオで聴くと、意外に聴きやすい声でうれしかったです。

2 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

年史の編さんに関わっている自覚が強まり、もっと積極的に動くようになるようになりました。

湯浅 愛理さん

1 周りの反響

ラジオに出ることは、家族以外に言っていなかったのですが、Twitterで知った友人に「出てたんや!」と驚かれました。あまり褒められない母親から「頑張ってたやん」と、褒められたのが印象的でした。

2 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

声だけで情報を伝える難しさと奥深さを感じ、興味を持ちました。



ダンス部が私の原点

ダウン症の子と親のサークル立ち上げ



寺本 夢さん

ボディメイクトレーナー、ダンサー向け美構造BSMforDancers代表/
笑美庵／夢表現からだ塾 主宰
ダウン症の子どもと親の「神戸おやこ療育サークル」副代表
文学部教育学科 健康・スポーツ専攻2002年卒

附属中高から大学まで、武庫川学院で過ごした10年のほとんどをダンス部で過ごし、全国大会でたびたび賞も取りました。将来はダンスかミュージカルのプロになると、バレエや声楽も習っていましたが、大学2年で子どもたちに振り付けをしたのを機に「教える」楽しさに開眼。教員の道に進み、高校や専門学校で主にダンスを指導していました。

転機は2015年。ダウン症で生まれた長男のマイペースな成長に合わせ、私もフルタイムの仕事から時間を自分で管理できる個人事業主の仕事に、ペースを切り替えました。同じころ、藤原ヒロシさん考案の美構造メソッドに出会ったのも後押しになりました。古武術や整体に基づいた身体メソッドで、からだの可動域が広がるんです。私はこれをダンサー向けにアレンジした「BSM for Dancers」を考案。より可動域を広げたいダンサーに個別に指導しています。

長男は元気に成長しています。ただ、ハイハイにも寝返りにも、サポートと時間がかかりました。ネット検索で「療育」が良い



療育サークルの仲間たちと

らしいと知り、市の療育先にたどり着きました。そこで偶然にも、教員時代の知人と再会。しかも、彼女も1週間違いでダウン症の子どもを出産していたんです。互いに悩みや不安を打ち明ける中で「じゃあ、情報共有できるサークルを作ろう」と、一緒に立ち上げたのが「神戸おやこ療育サークル」です。

現在、ダウン症の子を持つ55家族が参加し、LINEで情報交換したり、定例会を開いたりしています。私は子育てで教員を辞めてしまったけれど、2歳から保育園に通う息子は、まだ歩けないながら、クラスの子に混じって遊んでいます。子どもの方がたくましいですよ。母親が子どもを理由に夢を諦める必要はないことを、ほかのお母さんに伝えたいですね。

私は12月15日、大学のダンス部定期公演 50回記念に、OGとして出演します。4か月の長女を連れて、練習にも参加しています。私が抜けられないフォーメーションのときは、手の空いた人が娘を見てくれます。やっぱり武庫女はあったかいな、いつでも帰れる場所だな、と、改めて思います。



ダンサーを指導する
寺本さん



バレエスタジオの指導風景

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

友人から「子どもとお母さんに寄り添っている夢、すてきだよ」、ダウン症児のお母さんからは、「パーソナルトレーナーとしてバリバリ活動している姿、励みになりました」、知らない人からも「共感しました!」とメッセージが届きました。私が話したことで、誰かが前向きになれたり、人を励ましたりすることができるんだとうれしい驚きでした。

2 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

出演したことで、武庫川で過ごした日々を鮮明に思い出し、何か貢献できればと強く思うようになりました。ダンス部の50周年記念公演に出演したのをきっかけに、附属中高のダンス部で「軸が引き上がり、踊りやすくなるカラダの使い方講座」を教えることになりました。

3 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

同級生もみんな武庫川学院が大好きです。卒業生が気軽にネット上で情報を得たり、おしゃべりしたりできるネットサロンがあれば、遠方などで、母校になかなか足を運べない人も母校と関わる機会ができるかもしれません。



今も現役薬剤師 学院発展期に学んで



鳥居 千恵子さん

薬剤師
布電株式会社課長
薬学部薬学科1971年卒

1961年に実家のある淡路島を離れ、武庫川中学に入学しました。教育者だった伯父が、「薬剤師はこれからの時代、とてもいい職業だ。武庫川に近々薬学部ができるそうなので、せっかくだから中学から武庫川に入ってはどうか」と、アドバイスしてくれました。親元を離れ、下宿生活は心細かったけれど、学校はとても楽しかったですよ。

当時、武庫川学院は発展期。中高は1クラス約70人で1学年に10~16組あり、増え続ける学生生徒を収容するため、第二学舎(現浜甲子園キャンパス)を建設中でした。おかげで私は薬学の校舎で学んだり、第一学舎の木造校舎に戻ったり、教室を転々となりました。

校祖・公江喜市郎先生のこともよく覚えています。中高時代、週に1度、朝礼台に立ち、「学問をして幅広い教養を身に付け、社会や家庭に貢献できる人に育ててほしい」と、熱心に語りかけてくださいました。大阪のフェスティバルホールを借り切って音楽やクラシックバレエの鑑賞会をしたり、オリンピック選手を本学に招待したり、芸能、スポーツでも世界トップレベルを知る機会があったのは、公江先生のおかげです。



大学は伯父の勧め通り薬学部に進み、国家試験に向けて勉強しました。大学3年のとき、文化祭の催しで血液について展示したことがあります。そのとき、アドバイスをもらおうと日本赤十字社を訪ねたのがきっかけで、武庫川女子大学に定期的に献血車が来るようになり、今も続いているそうです。ありがたいですね。私自身、最初の就職は、日赤の血液センターにお世話になりました。

結婚、出産で転職し、布亀に勤めて35年になります。配置販売業で始まった会社ですが、今はサプリメントや牛乳の宅配、介護、高齢者の生活支援など幅広く事業を展開しています。私は主に一般販売業や漢方薬局の管理薬剤師として勤めてきました。お客さまから病気のことはもちろん、薬の飲み合わせについて相談されることが多いです。

先日、古希の記念に薬学部の同窓会があったのですが、出席者の半数が現役で働いていました。いくつになっても人のお役に立てる薬剤師という職業は、本当に素晴らしいと、改めて思います。いち早く薬学部を開設した公江先生と、伯父の先見の明に感謝です。今後、在宅看護が主流になれば、薬剤師が患者さんに寄り添い、職能を発揮できる場面はますます増えるでしょう。武庫川の薬学から多くの薬剤師が育つことを、心から期待しています。



ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

スタッフの方が仲良く仕事をされていて、緊張している私を上手に会話に導いてくださり感謝しています。次があればもっと上手に話せるのですが（笑）。

2 周りの反響

職場で「ネットでご出演を知ってラジオ聴きました！すごいですね」と、女子社員が興奮して駆け込んできました。後輩からは「鳥居さんの経験の重みを感じられました」と連絡がありました。夫は友人2人から「君の奥さんすごいですね」と連絡をもらい、うれしそうでした。

3 出演の前後で 気持ちや暮らしに変化は

もともとラジオはよく聴いていましたが、内容は聞き流していました。今回の出演をきっかけに、DJや出演者の会話を大事に聴くようになりました。聴いている人に伝わるよう話すことがいかに難しいか、痛感しました。

4 20年後、100周年を迎える 武庫川学院に期待することは

武庫川の卒業生が今以上に各界で活躍するとともに、良い家庭を持ち、「子育ても一流」「仕事も一流」と言われるよう、優しく知的な女性が育ってほしいです。



今日もラジオからあの人の声 暮らしに寄り添うアナウンサーをめざして



島田 真梨子さん

K-mix静岡エフエム放送アナウンサー
文学部日本語日本文学科2011年卒

K-mixは、浜松市にあるエフエム放送局です。浜松の人はお祭り好きで、男性も女性もエネルギッシュ。どこか出身の福岡に似ていてすぐ溶け込みました。サテライトスタジオのある藤枝市に特化した番組を担当するほか、ニュースを読んだり、クラシックの音楽番組のナレーションをしたり。今日は藤枝市への愛をこめて、アクセサリーもワンピースも藤色で決めました。

アナウンサーをめざしたのは中学2年のとき。「お母さん」をテーマにラジオ番組に投稿した一枚のはがきがきっかけで、番組に出演したんです。スタジオで、私の緊張を解きほぐすように、いろんな問い掛けをしてくれるパーソナリティーのおしゃべりが見事で、「私も誰かの魅力を引き出せる話し手になりたい」と心に決めました。

大学は「少しでもアナウンサーになる夢に近づきたい」という思いから関西へ。書道ゼミがあって、小学生から続けている書道で卒業制作ができることに引かれ、武庫川女子大学を選びました。新聞記者出身の河内鏡太郎教授と出会えたことも幸運でした。



浜松餃子祭りでMCをつとめる島田さん

河内先生に繰り返し、教えられた「現場を大切に」という教訓は、今もしっかり守っています。

卒業後、地元・北九州市でケーブルテレビのレポーターと観光大使の仕事をしていましたが、「もっと広いエリアで仕事がしたい」という思いが強く、地域の放送局をめざして K-mix 静岡エフエム放送に転職し、7年になります。現場に足を運び、いろんな人と出会う中で、人との距離をどう縮めるか、自分をどう伝えるか、日々、やりがいと難しさを感じています。

大学時代、甲子園球場でビールの売り子をして、気づいたことがあります。たくさんいる売り子の中で、お客さんに覚えてもらうには、人と少しだけ違うことをして、キャラクターを際立たせることだと。実際、目立つ色の小物を身に着けたり、常連のお客さんの顔を覚えたりしたことでレポーターが増え、売り上げ増につながりました。

私は地域のみなさんに「島田さんの声が今日も聞こえているね」と、生活の中でほっとする存在でありたい。そのために「島田真梨子といえば、これ」と、みなさんと共有できるキャラクターを確立し、おしゃべりする仕事を細く長く続けていきたいと思っています。



藤枝市のトマト農家をレポート

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

インタビューされる側は貴重な経験で、実は少し緊張しましたが楽しくトークできました！念願の関西デビュー！？笑

2 周りの反響

九州の両親はradiko.jpで聴いてくれて、関西在住のK-mixリスナーの方もリアルタイムで聴いたと番組にメッセージがありました！

3 2で印象的な言葉、リアクション

母から「生き方やアナウンサーとしての原点がよく伝わってきたよ！」というメールが来ました。静岡に来ることを誰よりも寂しがっていた母に少しは親孝行できたかな～と実感。

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

MUKOJOラジオ出演は、私自身も新たなステージへ成長しようと思うきっかけとなりました。学生のキャリア支援で何かしらの形で役に立ちたい！という新たな目標もできました。

5 20年後、100周年を迎える武庫川学院に期待することは

収録後、武庫女に8年ぶりに足を運び、進化した母校の姿に感動しました！なかでも図書館に学生がたくさん集い、思い思いの時間を過ごしている様子に感激！より学生一人ひとりが輝き、そして全国各地で活躍する女性が武庫女から羽ばたいていくことを願っています！

リスナーからのメッセージ

番組では月間リスナープレゼントを実施しています。2018年は、学院キャラクターのLavyグッズをはじめ、学生が企業とコラボして開発したカップスープ、ゲストから提供された甘酒やクリアファイルなどを、「読むMUKOJOラジオ」と共に、プレゼントしました。たくさんのご応募ありがとうございました。応募メールに添えられたメッセージの一部を紹介します。

✉ 女性 35歳 (岡山県)

「毎週、家事をしながら聴いています。フレッシュな現役学生から、それぞれの分野で活躍するOGまで、輝く女性たちの話に刺激を受けます。小学5年の娘も興味を持って聴いています」

✉ 女性 45歳 (兵庫県)

「友人に教えてもらって聴き始めました。卒業生の子供が分かるので、進路の参考にと、娘たちといっしょに聴いています」

✉ 男性 38歳 (大阪府)

「ラジオを聴くたび、武庫女の魅力を知り、娘の人生の選択肢に武庫女もありだと思えるようになりました」

✉ 男性 34歳 (兵庫県)

「甲子園に行くときキャンパスの横を通ります。立派な雰囲気の良い建物ですね」

✉ 女性 29歳 (京都府)

「いつも聴いています。学生さんたちがいろいろ発信してくれるので娘の進路を考える参考になります」

✉ 女性 38歳 (兵庫県)

「ゲストの寮母さん、あたたかな雰囲気でも私も入寮したくなりました」

✉ 女性 17歳 (大阪府)

「『聴くオープンキャンパス』みたいな感じで聴いています」

✉ 女性 59歳 (兵庫県)

「武庫女卒の方が周りにけっこういて、親しみがあります。私の卒業校にはこんなラジオ番組はないのでうらやましいです」

✉ 女性 40歳 (大阪府)

「塩田さんの声にいやされています。夢を持った若い女の子のお話を聴いていると、私も頑張って目標にされるような女性になりたいと思います」

✉ 女性 16歳 (兵庫県)

「妹とお母さんといっしょに聴きました。商品開発に関わる仕事、興味津々です。読むMUKOJOラジオがすごく気になってます。じっくり読みたいです」

✉ 女性 22歳 (大阪府)

「私も大学生ですが、管理栄養士の方の大学入学当初から大学院に進学を決めていた熱意に驚きました」

✉ 女性 33歳 (京都府)

「今日のゲストの英語を使ったお仕事、すごすぎて驚くばかりです」



あ と が き

「続 読むMUKOJOラジオ」は2018年4月に刊行した「読むMUKOJOラジオ」の続編です。「読むMUKOJOラジオ」は2017年4月～12月の全39組を、「続 読むMUKOJOラジオ」には2018年1月～12月の全52組のトークを読みやすいダイジェストにして掲載しています。

振り返れば、放送2年目の「MUKOJOラジオ」は、チャレンジの連続でした。3月、共通教育科目初の「アウシュビッツツアー」に参加中の学生が、現地から番組にレポートを送りました。8月には中央キャンパスで、初の公開収録を実施。多くの高校生が「MUKOJOラジオ」と出会いました。4月から始めた月間プレゼントは、リスナーと番組をつなぐ大切なツールになっています。

ゲストと学院のコラボレーションも活発です。73回放送の渡邊翠さんは広報室の動画「Starting Point」と、広報誌「リエール」41号に、80回放送の植田愛美さんはInstagram「Mukogress」に登場。78回放送の小島有子さん、86回放送の平島利恵さんは、「リエール」42号に掲載されています。87回放送の金村祐美子さんは、2018年11月に開催した80周年記念イベントの卒業生座談会「オリンピックたち」に登壇しました。

65回放送の若見しのぶさんは、2019年11月に開催する武庫川学院80周年記念式典をプロデュース。式典後の祝賀会では、43回放送の星野舞子さんが、「ビタミンS」として出演することが決まっています。

「続 読むMUKOJOラジオ」では、77回放送の佐々木彩さんが、イラストを描いてくれました。2019年2月にママになった佐々木さんの、かわいくて、ほっとするイラストをお楽しみください。

「MUKOJOラジオ」の立ち上げから運営に携わり、ライターとして「読むMUKOJOラジオ」「続 読むMUKOJOラジオ」を執筆しました。ゲストのみなさまには、ラジオ出演に引き続き、アンケート等でご協力いただき、ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。



ラジコ

radiko.jp

を使えば、



スマホ



パソコン

で

武庫川女子大学ラジオ

いつでも
どこでも

MUKOJO ラジコ が聴けます!

ラジコとは?

あなたが今いるエリアで放送しているラジオ局をスマートフォンやパソコンで聴くことができるアプリです。
また、タイムフリー機能で聴き逃した番組※を後で聴くことができます。
※過去1週間以内に放送された番組のみ。聴取可能時間(3時間)があります。



スマートフォンの場合

お使いのスマートフォン(iPhone / Android)に対応したアプリを取得してください。

iPhoneの場合



Androidの場合



パソコンの場合



ポッドキャストでも聴けます!

「FM OH!」のホームページで、過去に放送した番組のポッドキャストを配信中。

発行 / 2019年4月1日

企画・制作・編集 / 武庫川女子大学 広報室

発行 所 / 武庫川女子大学 出版部

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46

TEL.0798-47-1212(代表)

デザイン・印刷 / 大和出版印刷株式会社

〒658-0031 兵庫県神戸市東灘区向洋町東2-7-2

ISBN 978-4-907594-08-4

定価 602円+税

イラスト : 佐々木 彩

文 : 米田 浩子

ISBN978-4-907594-08-4

C0400 ¥602E



9784907594084

定価 (本体602円+税)



1920400006022

武庫川女子大学ラジオ-MUKOJOラジオ-



毎週水曜 20:00~20:30

DJ: 塩田えみ

http://www.fmosaka.net/_sites/16783117

「武庫川女子大学ラジオ-MUKOJOラジオ-」は、輝く女性を応援する30分プログラムです。